

システム名	MSP
ソフトウェア 略 称	DF-LOADCHART
適 用 バージョン・レベル	V21L21
製品コード	A9316801-2121-1

# ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/DF-LOADCHART V21



## ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

SIMPLIA/DF-LOADCHART V2.1

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

◆参照 → 本書中の参照箇所を示しています。

◆【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例：◆【1】 1.2 …… “適用マニュアル” 第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2015年10月

富士通株式会社

## 目 次

1.	機能概要 .....	1
2.	構成プログラム .....	3
3.	適用マニュアル .....	3
4.	新機能 .....	4
5.	制限事項 .....	7
6.	移行上の注意 .....	7
7.	ソフトウェア組合せ条件 .....	8
8.	入出力装置 .....	8
9.	提供媒体形式と内容 .....	9
10.	DASD所要量 .....	10
11.	インストレーションの手引 .....	11
12.	稼働確認 .....	20
13.	日本語名標辞書データ変換プログラム .....	30
14.	日本語名標辞書作成支援プログラム .....	34
15.	ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラム .....	37
16.	適用マニュアルの正誤表 .....	38
17.	プログラム修正事項 .....	115

## 1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

OSIV/MSP SIMPLIA/DF-LOADCHART (SIMple development & maintenance support Program Libraries for Application system/Document Facility of LOAD module CHART) は、ロードモジュールおよびソースプログラムを解析し、保守用ドキュメントを出力するツールである。

DF-LOADCHARTは以下の機能を持つ。

### 1. 1 ロードモジュール構造図出力機能

ロードモジュール中の呼出し関係を図式化して出力する機能である。このロードモジュール構造図では、各モジュールから呼び出されるモジュールを下位のモジュールとみなし、階層関係が出力される。また、ロードモジュールライブラリ内の他モジュールから呼び出されていないモジュールをメインモジュールとみなし、メインモジュールを起点としたロードモジュール構造図を出力することもできる。

ロードモジュール構造図を利用することにより、ロードモジュール全体の構造が容易に把握できる。

### 1. 2 ロードモジュール一覧出力機能

ロードモジュールの詳細情報を一覧表にして出力する機能である。このロードモジュール一覧では、ロードモジュール作成日、サイズおよびモジュール属性などが出力される。

ロードモジュール一覧を利用することにより、指定した各メンバの情報が容易に把握できる。

### 1. 3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能

ロードモジュールとソースプログラムの作成日（修正日）の関係を一覧表にして出力する機能である。このロードモジュール／ソース作成日付チェックリストでは、ロードモジュールの作成日、ソースプログラムの最終修正日および日付比較の結果などが出力される。

ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストを利用することにより、ロードモジュールとソースプログラムの整合性を容易にチェックすることができる。

### 1. 4 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能

ロードモジュールとソースプログラムの作成日時（修正日時）の関係を一覧表にして出力する機能である。静的結合されているロードモジュールについても出力される。このロードモジュール／ソース作成日時チェックリストでは、ロードモジュールの作成日、翻訳日時、ソースプログラムの最終修正日時および日時比較の結果などが出力される。

ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストを利用することにより、ロードモジュールとソースプログラムの整合性を容易にチェックすることができる。

### 1. 5 ロードモジュール構造図保存ファイル作成機能

ロードモジュール構造図を出力するための情報をファイルに格納する機能である。

このファイルを入力して、利用者独自の情報利用が可能である。

## 1. 6 ロードモジュール一覧保存ファイル作成機能

ロードモジュール一覧を出力するための情報をファイルに格納する機能である。

このファイルを入力して、利用者独自の情報利用が可能である。

## 1. 7 日本語出力

日本語名標辞書によるロードモジュール名の日本語出力を行い、理解しやすいドキュメントを出力することができる。

## 1. 8 S Y S I N制御文による指定

S Y S I N制御文では以下の指定方法があり、検索範囲、出力範囲および改ページ条件を指定することができる。

- ー 走査条件指定制御文

- ー 出力抑制指定制御文

- ー 業務区分指定制御文

### a) 走査条件指定制御文

走査条件指定制御文には、メンバ選択制御文、日付選択制御文および複合条件指定制御文があり、検索範囲をロードモジュールのメンバ名、作成日付およびその両方で指定することができる。

### b) 出力抑制指定制御文

出力抑制指定制御文には、ロードモジュール構造図、ロードモジュール構造図保存ファイルおよびロードモジュール／ソース作成日時チェックリストに出力させないロードモジュールを、その接頭語により指定する。

### c) 業務区分指定制御文

業務区分指定制御文は、メンバ名の一部分が業務名を表す場合、メンバ名のどの部分が業務名であるかを指定するものである。業務区分指定制御文が指定された場合、ロードモジュール一覧、ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストおよびロードモジュール／ソース作成日時チェックリストは、その業務単位ごとに改ページされる。

## 1. 9 C S V形式ファイル

ロードモジュール構造図、ロードモジュール一覧、ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストおよびロードモジュール／ソース作成日時チェックリストは、C S V形式ファイルとして出力することができる。

## 2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分 類	プログラム名	バージョン・レベル	備 考
1	SIMPLIA/ DF- LOADCHART	JSMH0000	V21L21	
		JSMHCCIN	V21L21	保存ファイル変換用
		JSMHDICT	V21L21	日本語名標辞書変換用
		JSMHDSS1	V21L21	日本語名標辞書作成支援用
		JSMHDSS2	V21L21	日本語名標辞書作成支援用

## 3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項 番	マ ニ ュ ア ル 名 称	マニュアルコード	備 考
1	OS IV SIMPLIA/DF-LOADCHART 解説書	J1M0-9110-01	

#### 4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョンレベルに対して次のような機能追加および改良が行われている。

##### 4. 1 V20L11で行われた機能追加・改良点

###### 4. 1. 1 OSIV/MSPの対応.

OSIV/MSPで、XA-AE形式のロードモジュールをサポートしたため、XA-AE形式の解析も可能とした。これに伴いロードモジュール一覧のアドレス拡張属性の表記方法を新たに設けた（表4.1 参照）。

表4.1 アドレス拡張属性の表記方法

		基本+24ビット	基本+31ビット	基本+24or31ビット	拡張+31ビット
OSIV/F4 MSP E20 (F J 形式)		B-24	B-31	B-ANY	E-31
OSIV/MSP	(F J 形式)	B-24	B-31	B-ANY	E-31
	(XA-AE 形式)	B/24	B/31	B/ANY	E/31

###### 4. 1. 2 ADJUST対応

ADJUSTが作成するフォームオーバーレイモジュールのフォーマットと、ロードモジュールのフォーマットが同じであるため、ロードモジュール一覧出力機能、ロードモジュール一覧保存ファイル作成機能、ロードモジュール/ソース作成日付チェックリスト出力機能の3機能について、ADJUSTが作成するフォームオーバーレイモジュールも出力できるようにした。

###### 4. 1. 3 エラー情報リストの出力内容の変更

以前のバージョンレベルでは、ソースに日付の情報がない場合『メンバmem1は、パラメタで指定されたPFD またはAP/DF にて作成されていません。』のメッセージをエラー情報リストに出力していたが、ロードモジュール/ソース作成日付チェックリストにこの情報を反映させたため、エラー情報リストへの出力は行わない。

###### 4. 1. 4 ロードモジュール/ソース作成日付チェック結果リストのフォーマット変更

上記4. 1. 3に伴い、ロードモジュール/ソース作成日付チェック結果リスト上に『ソース最終修正日を取得することができない』という項目を追加した。（図4.1 参照）

この項目にカウントされるのは、次の三つの場合である。

- ①ソースがPOでかつ、AP/DFで作成されているのに、パラメタで'PFD'と指定している。
- ②ソースがPOでかつ、PFDで作成されているのに、パラメタで'AP/DF'と指定している。
- ③ソースがPOでかつ、PFDで作成されているのに、プロフィールの履歴機能が停止状態である。

ロードモジュール作成日とソース最終修正日が同一	14	
ロードモジュール作成日がソース最終修正日より新しい	4	
ロードモジュール作成日がソース最終修正日より古い	1	
ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない	1	
ソースライブラリにメンバが存在しない	1	
ソース最終修正日を取得することができない	1	⇐ 追加
メンバ数合計		22

図4.1 ロードモジュール/ソース作成日付チェック結果リスト



#### 4. 1. 5 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストの出力内容の変更

上記4. 1. 3に伴いソース最終修正日を取得することができないメンバをリストに出力し、最終修正日欄に『??. ??.??. ??』, メッセージ欄に『ソース最終修正日を取得することができない』を出力するように変更した.

#### 4. 1. 6 段落名の無いP S E C TおよびC S E C Tを持つロードモジュールの対応

入力されたロードモジュールに段落名の無いP S E C TおよびC S E C Tが存在する場合、以前のバージョンレベルでは、ロードモジュール構造図のドキュメントの内容とその保存ファイルの内容とで、解析内容が異なることがあった. そのため、ロードモジュールに段落名の無いP S E C TおよびC S E C Tが存在する場合、以下のように処理する.

##### ①動的結合の場合

入力されたロードモジュールに段落名の無いP S E C TおよびC S E C Tが存在する場合、主入口名をロードモジュールの本名として扱い、処理を続行する.

この時、以下のメッセージを出力する.

```
JSMHS007-I
ロードモジュール 'meml' には、私用コード（名前なしセクション）が含まれています.
[メッセージの意味]
ロードモジュール 'meml' には、私用コード（名前なしセクション）が含まれている.
[パラメタの意味]
meml: 私用コード（名前なしセクション）を含んでいるメンバ（モジュール）名.
[システムの処置]
名前なしセクション名を、そのモジュールのメンバ名に置き換えて処理を続行する.
```

##### ②静的結合の場合

入力されたロードモジュールに段落名の無いP S E C TおよびC S E C Tが存在する場合、静的モジュールに含まれている下位階層の解析を中断する. またその際、解析を打ち切ったロードモジュールのボックスの右側に“!”のマークを出力する. (!の意味: 解析不能による出力打ち切り)

この時、以下のメッセージを出力する.

```
JSMHS008-I
ロードモジュール 'meml' は、私用コード（名前なしセクション）を静的に含んでいます.
[メッセージの意味]
ロードモジュール 'meml' は、私用コード（名前なしセクション）を静的に含んでいる.
[パラメタの意味]
meml: 私用コード（名前なしセクション）を含んでいるメンバを、静的に含んでいるメンバ（モジュール）名.
[システムの処置]
memlの解析を打ち切り、処理を続行する.
```

#### 4. 1. 7 ロードモジュール構造図保存ファイルの親本名区分に意味追加

上記4. 1. 6に伴い、保存ファイルからのロードモジュール構造図出力においても、同じ内容のドキュメントを出力するために、親本名区分に意味を追加した. (表4.2 参照)

表4.2 親本名区分の内容と意味

親本名区分の内容	親本名区分の内容	
1 . . . . .	親モジュール名が本名	
. 1 . . . . .	親モジュール名が別名	
. . 1 . . . . .	親モジュール名が副入口名	
. . . 1 . . . . .	親モジュールに段落名の無いP S E C T又はC S E C Tが存在する	⇐追加

#### 4. 2 V 2 1 L 1 0 で行われた機能追加・改良点

##### 4. 2. 1 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストの追加

ロードモジュールとソースプログラムの関係を時分秒までチェックし、静的結合されているロードモジュールについても出力可能であるロードモジュール／ソース作成日時チェックリストを新しく追加した。

#### 4. 3 V 2 1 L 2 0 で行われた機能追加・改良点

##### 4. 3. 1 C S V形式ファイル出力の追加

以下の機能に対して、ドキュメントの情報をC S V形式ファイルとして出力できるようにした。

- ー ロードモジュール構造図出力機能
- ー ロードモジュール一覧出力機能
- ー ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能
- ー ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能

##### 4. 3. 2 メインモジュール検索出力の追加

ロードモジュール構造図出力機能において、メインモジュールを自動検出しメインモジュールを起点としたロードモジュール構造図を出力できるようにした。

##### 4. 3. 3 言語翻訳プログラムV／L出力の追加

以下の機能に対して、C S V形式ファイルの出力時には、言語翻訳プログラムのV／Lを出力できるようにした。

- ー ロードモジュール一覧出力機能
- ー ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能
- ー ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能

また、ロードモジュール一覧出力機能では、保存ファイル出力においても言語翻訳プログラムのV／Lを出力できるようにした。

##### 4. 3. 4 日本語名標辞書作成支援プログラムの提供

DF－LOADCHARTで使用する日本語名標辞書の作成を支援する機能（機能1と2）を提供した。

- ー 機能1：DF－LOADCHARTが出力するロードモジュール一覧のC S V形式ファイルを入力とし、日本語変換の対象となる単語をC S V形式の単語ファイルとして出力する。  
出力された単語ファイルに、利用者は日本語を入力する。
- ー 機能2：上記の単語ファイルを入力とし、ADJUSTの日本語名標辞書を作成する。

## 5. 制限事項

このソフトウェアでは、マニュアルに記載の事項のうち使用を制限しているものがある。

これらの制限事項の内容とその代行方法・解除予定を表5.1 に示す。

表5.1 制限事項

項 番	制限事項	備考（代行方法，その他）	解除予定
1	当ソフトウェアを認定ライブラリにインストールする又はインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOB LIB D文，又はSTEPLIB DD文に，当ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して，実行する。	未定
2	カタログのみ存在するデータセットを入力とした場合には，JSMHC001-S DD名'dd名'がジョブ制御文中に指定されていません。 のメッセージが出力される。	正しく作成されているデータセットを指定して，再度実行する。	未定

## 6. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移る場合には，以下の事項に留意しなければならない。

- － V20と共存させる場合は，別ライブラリにインストールすること（旧バージョンレベルと同じライブラリに格納しない）。
- － フォームオーバーレイについては，V20からの移行の場合，変更および追加があるため，イメージライブラリを作成しなおす必要がある。  
V21からの移行の場合，そのまま使用することができる。
- － 実行用ジョブ制御文については，そのまま使用することができる。ただし，新機能分に関しては，新規に作成すること。
- － ロードモジュール構造図保存ファイルについては，そのまま使用することができる。
- － V21L10以前で作成したロードモジュール一覧保存ファイルについては，ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムにて変換する必要がある。

◆参照 → 15

## 7. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要なソフトウェアは以下のとおりである。

表7.1 必要ソフトウェア (OSIV/MSP)

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備 考
		必須	任意	
A F II	V10L10以降	○		
C O B O L 8 5	V12L10以降	○		
A D J U S T	V11L10以降	○		
J E F 基本辞書	V01L92以降	○		
ソートマージ	V10L30以降		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>英数字名順, 日本語名順および作成日付順でロードモジュール一覧を出力する場合.</li> <li>英数字名順, 日本語名順, 日付順, ユーザ識別子順および所有者名順でロードモジュール/ソース作成日付チェックリストを出力する場合.</li> <li>英数字名順, 日付順でロードモジュール/ソース作成日時チェックリストを出力する場合.</li> </ul>
G E M	V10L30以降		○	ソースライブラリがG E Mの場合.
P F D	V10L30以降		○	ソースライブラリが区分編成で, T S Sにおけるプログラム開発支援がP F Dの場合.
A P / D F	V20L10以降		○	ソースライブラリが区分編成で, T S Sにおけるプログラム開発支援がA P / D Fの場合.

## 8. 入出力装置

本ソフトウェアの各ドキュメントの出力が可能なプリンタ装置について説明する。

本ソフトウェアの帳票は, 日本語ラインプリンタ, およびカット紙ラインプリンタで出力することができる。ただし, フォームオーバーレイが出力でき, 1行当たりのデータ長が 362バイト以上の帳票が出力できるプリンタであること。

## 9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される磁気テープの内容は、表9.1 から表9.2 に示すとおりである。

表9.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻 数
S L	D F L O A D	1 0	1

表9.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	DFLOAD. JCL	J C L ファイル（インストール用ジョブ制御文，実行用ジョブ制御文，フォームオーバーレイソース）のJSECOPY アンロード版
2	DFLOAD. LOAD	ロードモジュールのJSECOPY アンロード版
3	DFLOAD. IMAGELIB	イメージライブラリのJSECOPY アンロード版
4	DFLOAD. TESTLOAD	稼働確認用入力元ロードモジュールのJSECOPY アンロード版
5	DFLOAD. TESTSOC	稼働確認用入力元ソースライブラリのJSECOPY アンロード版
6	DFLOAD. GEMLOAD	稼働確認用入力元ロードモジュールのJSECOPY アンロード版
7	DFLOAD. NDICT	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERアンロード版
8	DFLOAD. UTYLOAD	ユーティリティ用ロードモジュール（日本語名標辞書データ変換プログラム，日本名名標辞書作成支援プログラム，ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラム）のJSECOPY アンロード版 ◆参照 → 13, 14, 15
9	DFLOAD. UTYJCL	ユーティリティ用 J C L ファイル（日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文，日本語名標辞書作成支援プログラムの実行用ジョブ制御文，ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムの実行用ジョブ制御文）のJSECOPY アンロード版 ◆参照 → 13, 14, 15
10	DFLOAD. GEMSOC	稼働確認用入力元ソースライブラリのGEM BACKUP アンロード版

# 10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りは表10.1に示すとおりである。

表10.1 DASD所要量

単位は各々次のとおり、  
レコード長、ブロック長：バイト  
ディレクトリ：ブロック  
DASD所要量：トラック

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標準名	変更 可否		ディレ クトリ	D A S D所要量		
					F6421	F6425	
1	DFLOAD. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	2	3	2	
2	DFLOAD. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	4 1	8 7	5 8	
3	DFLOAD. IMAGELIB	可	区分編成 U 0 6144	1	2 3	1 5	
4	DFLOAD. TESTLOAD	可	区分編成 U 0 6144	2	5	3	
5	DFLOAD. TESTSOC	可	区分編成 FB 80 3120	2	2	1	
6	DFLOAD. GEMLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	3	2	
7	DFLOAD. NDICT	可	順編成 FB 94 940	—	2	1	稼働確認で、日本語名標 辞書を使用する場合に必要
8	DFLOAD. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	3	2	日本語名標辞書データ変 換プログラム，日本語名 標辞書作成支援プログラ ム又はロードモジュール 一覧保存ファイル変換プ ログラムを使用する場合 に必要
9	DFLOAD. UTYJCL	可	区分編成 FB 80 3120	1	2	1	日本語名標辞書データ変 換プログラム，日本語名 標辞書作成支援プログラ ム又はロードモジュール 一覧保存ファイル変換プ ログラムを使用する場合 に必要
10	DFLOAD. GEMSOC	可	G E M	0	5	3	DF-LOADCHARTのインスト ール前に割り当てておく こと（左記値はブロック 長が5 4 4 8の場合のもの である）

## 11. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

### 11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、JCLファイルの1メンバとして提供している。

#### 11.1.1 磁気テープ媒体からのローディング

磁気テープ媒体の提供JCLをローディングするジョブ制御文の例を図11.1に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=H,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD,JCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(1,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.DFLOAD,JCL,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.1 磁気テープ媒体からローディングするジョブ制御文（例）

#### 11.1.2 DVD媒体からのローディング

DVD媒体の提供JCLをローディングするジョブ制御文の例を図11.2に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD,JCL,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01.DFLOAD,JCL,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.2 DVD媒体からローディングするジョブ制御文（例）

#### [注意事項]

DVD媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD媒体からDASDへの転送については、DVD適用手引書を参照されたい。

## 11.2 インストール用ジョブ制御文の修正

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し、実行する。

### 11.2.1 磁気テープ媒体からのインストール

磁気テープ媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.3に示す。提供 JCL ファイル中のメンバ名は 'INSTALL' である。下線部は修正箇所を示す。なお下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、日本語名標辞書データ変換プログラム、日本語名標辞書作成支援プログラムおよびロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムの全てを使用しない場合は、INST03およびINST04のステップは実行しなくてよい。

◆参照 → 13, 14, 15

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB ,CLASS=H,MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//*** D F L O A D C H A R T インストール用 J C L ***
//*****
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD.LOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(2,SL)
//IN02 DD DSN=DFLOAD.IMAGELIB,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(3,SL)
//IN03 DD DSN=DFLOAD.TESTLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(4,SL)
//IN04 DD DSN=DFLOAD.TESTSOC,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(5,SL)
//IN05 DD DSN=DFLOAD.GEMLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(6,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.DFLOAD.LOAD,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(58,1,41),RLSE),UNIT=SYSDA
//OUT02 DD DSN=USER01.DFLOAD.IMAGELIB,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(15,1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//OUT03 DD DSN=USER01.DFLOAD.TESTLOAD,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(3,1,2),RLSE),UNIT=SYSDA
//OUT04 DD DSN=USER01.DFLOAD.TESTSOC,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,2),RLSE),UNIT=SYSDA
//OUT05 DD DSN=USER01.DFLOAD.GEMLOAD,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02,OUTDD=OUT02
COPY INDD=IN03,OUTDD=OUT03
COPY INDD=IN04,OUTDD=OUT04
COPY INDD=IN05,OUTDD=OUT05
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=DFLOAD.NDICT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(7,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.DFLOAD.NDICT,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD.UTYLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=DFLOAD,LABEL=(8,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*

```

図11.3 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文（続く）



```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD. UTYJCL, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFLOAD, LABEL=(9, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. DFLOAD. UTYJCL, DISP=(NEW, CATLG, DELETE),
// VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE), UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//INST05 EXEC PGM=JQHGM3, REGION=256K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//GEMLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. GEMSOC, DISP=SHR
//IN01 DD DSN=DFLOAD. GEMSOC, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFLOAD, LABEL=(10, SL)
//SYSIN DD *
- G A
- RESTORE A, IN=IN01
- END
/*
//

```

図11.3 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文（続き）

<補足説明>

- ・イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおりである。  
(KOL1HZK1, KOL1LDM1, KOL1MDL1, KOL1HZK3)
- ・INST05のステップの稼働確認用GEM ソースライブラリは、インストールの実行前に割り当てておくこと。

#### 11.2.2 DVD媒体からのインストール

DVD媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.4に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL2'である。下線部は修正箇所を示す。なお下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、日本語名標辞書データ変換プログラム、日本語名標辞書作成支援プログラムおよびロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムの全てを使用しない場合は、INST03およびINST04のステップは実行しなくてよい。

◆参照 → 13, 14, 15

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01B JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR
//*****
//*** DFLOADCHART インストール用JCL ***
//*****
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD. LOAD, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN02 DD DSN=DFLOAD. IMAGELIB, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN03 DD DSN=DFLOAD. TESTLOAD, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN04 DD DSN=DFLOAD. TESTSOC, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN05 DD DSN=DFLOAD. GEMLOAD, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. DFLOAD. LOAD, DISP=(NEW, CATLG, DELETE),
// VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (58, 1, 41), RLSE), UNIT=SYSDA
//OUT02 DD DSN=USER01. DFLOAD. IMAGELIB, DISP=(NEW, CATLG, DELETE),
// VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (15, 1, 1), RLSE), UNIT=SYSDA
//OUT03 DD DSN=USER01. DFLOAD. TESTLOAD, DISP=(NEW, CATLG, DELETE),
// VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (3, 1, 2), RLSE), UNIT=SYSDA

```

図11.4 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文（続く）

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//OUT04 DD DSN=USER01.DFLOAD.TESTSOC,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,2),RLSE),UNIT=SYSDA
//OUT05 DD DSN=USER01.DFLOAD.GEMLOAD,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02,OUTDD=OUT02
COPY INDD=IN03,OUTDD=OUT03
COPY INDD=IN04,OUTDD=OUT04
COPY INDD=IN05,OUTDD=OUT05
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=DFLOAD.NDICT,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01.DFLOAD.NDICT,VOL=SER=DASDXX,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=DFLOAD.UTYJCL,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYJCL,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE),UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//INST05 EXEC PGM=JQHGM3,REGION=256K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//GEMLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.GEMSOC,DISP=SHR
//IN01 DD DSN=DFLOAD.GEMSOC,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSIN DD *
- GA
- RESTORE A,IN=IN01
- END
/*
//

```

図11.4 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文（続き）

<補足説明>

- ・イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおりである。

(KOL1HZK1,KOL1LDM1,KOL1MDL1,KOL1HZK3)

- ・INST05のステップの稼働確認用GEM ソースライブラリは、インストールの実行前に割り当てておくこと。

### 11.3 インストールの実行

修正したインストール用ジョブ制御文を実行する。

### 11.4 フォームオーバーレイソース

このソフトウェアでは、ドキュメントの出力時にイメージライブラリを使用している。提供するイメージライブラリは、16インチ帳票用であり、デジタルスイッチの基準値を、垂直：4，水平：5で作成している。そのため、これ以外の基準値で使用すると、プログラムの印字とオーバーレイがずれて出力される。この場合は、フォームオーバーレイソースのMANNER文を修正し、イメージライブラリを再作成する。

また、利用者独自のマークを表示する場合や、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合などにも、提供JCLファイルに入っているフォームオーバーレイソースを修正して、利用者固有のイメージライブラリを作成できる。

フォームオーバーレイの修正および登録方法の詳細は、“OSIV/MSP ADJUST使用手引書”を参照されたい。図11.5にMANNER文の修正方法を示す。

MANNER CHAR (10, 6), MOVE (-1, 0)
水平←      → 垂直

図11.5 MANNER文の修正方法

MANNER文にMOVEオペランドを追加し、水平方向および垂直方向の位置を修正する。

フォームオーバーレイソースのJCL中のメンバは以下のとおりである。

— OVLMDL1	———	ロードモジュール構造図
— OVLLDM1	———	ロードモジュール一覧
— OVLHZK1	———	ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト
— OVLHZK3	———	ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト

### 11.5 JES初期化文の指定

JES初期化文の出力クラスに関するパラメタに、GRAPHパラメタを指定する。

GRAPHパラメタを指定しない場合、フォームオーバーレイは出力されない。

## 11.6 実行用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文を修正する。なお、下線部以外にもPARMパラメタ、SYSIN制御文およびシステムに合わせて装置名の修正も行う。

### 11.6.1 ロードモジュール構造図出力用ジョブ制御文の修正

ロードモジュール構造図出力機能ジョブ制御文を図11.6に示し、その説明をする。JCLファイル中のメンバ名は'STRCT'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. LOAD, DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01. DFLOAD. IMAGELIB, DISP=SHR, ④
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX
//STRCT EXEC PGM=JSMH0000, REGION=2048K, ⑤
// PARM='STRCT(DCT, LEVEL=3, DUP), HANYO' ⑥
//SYSIN DD *
@MOPT M='TSTPRO01' ⑦
@POPT P=JMP, JZL
/*
//LOADLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. TESTLOAD, DISP=SHR ⑧
//JIMLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. NDICT, DISP=SHR ⑨
//JSMHHCOT DD DSN=USER01. STRCT. HOZON, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), ⑩
// UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), VOL=SER=DASDXX
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHHLST DD SYSOUT=*
//

```

図11.6 ロードモジュール構造図出力機能のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリ，ADJUST など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。  
注）ADJUST ロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 必要リージョンサイズは通常 2048K バイトを指定する。足りない場合には，必要に応じて増加する。 ◆【1】B.2
- ⑥ PARM パラメタに実行時オプションを指定する。
- ⑦ SYSIN 制御文を指定する。
- ⑧ 入力元のロードモジュールライブラリを指定する。
- ⑨ 実行時オプションで HANYO 指定時に，日本語名標辞書を指定する。
- ⑩ 実行時オプションで DCT 又は ONLY 指定時に，ロードモジュール構造図保存ファイルを指定する。

## 11.6.2 ロードモジュール一覧出力用ジョブ制御文の修正

ロードモジュール一覧出力機能のジョブ制御文を図11.7に示し、その説明をする。JCLファイル中のメンバ名は'LIST'である。

1	2	3	4	5	6	7
//USER01A	JOB	, CLASS=A, MSGCLASS=R				
//JOB LIB	DD	DSN=USER01.DFLOAD.LOAD, DISP=SHR				①
//	DD	DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR				②
//	DD	DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR				
//JOB CAT	DD	DSN=USERXXX, DISP=SHR				③
//IMAGELIB	DD	DSN=USER01.DFLOAD.IMAGELIB, DISP=SHR,				④
//		UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX				
//LIST	EXEC	PGM=JSMH0000, REGION=2048K,				⑤
//		PARM='LIST(DCT, NOSORT), HANYO'				⑥
//SYSIN	DD	*				
@MOPT	M=ALL					⑦
/*						
//LOADLIB	DD	DSN=USER01.DFLOAD.TESTLOAD, DISP=SHR				⑧
//JIMLIB	DD	DSN=USER01.DFLOAD.NDICT, DISP=SHR				⑨
//SORTWK01	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))				
//SORTWK02	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))				
//SORTWK03	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))				
//SYSOUT	DD	DUMMY				
//JSMHHCOT	DD	DSN=USER01.LIST.HOZON, DISP=(NEW, CATLG, DELETE),				⑩
//		UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE)				
//SYSPRINT	DD	SYSOUT=*				
//JSMHHLST	DD	SYSOUT=*				
//						

図11.7 ロードモジュール一覧出力機能のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリ, ADJUST など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。  
注) ADJUST ロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 必要リージョンサイズは通常 2048 K バイトを指定する。足りない場合には、必要に応じて増加する。 ◆【1】B.3
- ⑥ PARM パラメタに実行時オプションを指定する。
- ⑦ SYSIN 制御文を指定する。
- ⑧ 入力元のロードモジュールライブラリを指定する。
- ⑨ 実行時オプションで HANYO 指定時に、日本語名標辞書を指定する。
- ⑩ 実行時オプションで DCT 又は ONLY 指定時に、ロードモジュール一覧保存ファイルを指定する。

### 11.6.3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力用ジョブ制御文の修正

ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能のジョブ制御文を図11.8に示し、その説明をする。JCLファイル中のメンバ名は'DCHK'である。

	1	2	3	4	5	6	7
//USER01A	JOB	, CLASS=A, MSGCLASS=R					
//JOB LIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. LOAD, DISP=SHR					①
//	DD	DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR					②
//	DD	DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR					
//JOB CAT	DD	DSN=USERXXX, DISP=SHR					③
//IMAGELIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. IMAGELIB, DISP=SHR,					④
//		UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX					
//DCHK	EXEC	PGM=JSMH0000, REGION=2048K,					⑤
//		PARM='DCHK(NOSORT), HANYO'					⑥
//SYSIN	DD	*					
@MOPT	M=ALL						⑦
/*							
//LOADLIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. TESTLOAD, DISP=SHR					⑧
//SOCLIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. TESTSOC, DISP=SHR					⑨
//JIMLIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. NDICT, DISP=SHR					⑩
//SORTWK01	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))					
//SORTWK02	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))					
//SORTWK03	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))					
//SYSOUT	DD	DUMMY					
//SYS PRINT	DD	SYSOUT=*					
//JSMHHLST	DD	SYSOUT=*					
//							

図11.8 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85ライブラリ, ADJUSTなど必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 必要リージョンサイズは通常2048Kバイトを指定する。足りない場合には、必要に応じて増加する。 ◆【1】B.4
- ⑥ PARMパラメタに実行時オプションを指定する。
- ⑦ SYSIN制御文を指定する。
- ⑧ 入力元のロードモジュールライブラリを指定する。
- ⑨ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑩ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。

# 11.6.4 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力用ジョブ制御文の修正

ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能のジョブ制御文を図11.9に示し、その説明をする。JCLファイル中のメンバ名は 'SCHK' である。

	1	2	3	4	5	6	7
//USER01A	JOB	, CLASS=A, MSGCLASS=R					
//JOB LIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. LOAD, DISP=SHR					①
//	DD	DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR					②
//	DD	DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR					
//JOB CAT	DD	DSN=USERXXX, DISP=SHR					③
//IMAGELIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. IMAGELIB, DISP=SHR,					④
//		UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX					
//SCHK	EXEC	PGM=JSMH0000, REGION=2048K,					⑤
//	PARM=	'SCHK (NOSORT)'					⑥
//SYSIN	DD	*					
@MOPT	M=ALL						⑦
@POPT	P=JMP						
/*							
//LOADLIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. GEMLOAD, DISP=SHR					⑧
//SOCLIB	DD	DSN=USER01. DFLOAD. GEMSOC, DISP=SHR					⑨
//JSMH010	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE)					⑩
//SORTWK01	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))					
//SORTWK02	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))					
//SORTWK03	DD	UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))					
//SYSOUT	DD	DUMMY					
//SYS PRINT	DD	SYSOUT=*					
//JSMHHLST	DD	SYSOUT=*					
//							

図11.9 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85ライブラリ，ADJUSTなど必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。  
注）ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 必要リージョンサイズは通常2048Kバイトを指定する。足りない場合には，必要に応じて増加する。
- ⑥ PARMパラメタに実行時オプションを指定する。
- ⑦ SYSIN制御文を指定する。
- ⑧ 入力元のロードモジュールライブラリを指定する。
- ⑨ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑩ 大量データを入力する場合には，DCBパラメタによりブロック化を行う。デバイスタイプによるブロック長および指定方法は以下のとおり。
  - － F6421の場合の指定ブロック長： 8, 619 byte
  - － F6425の場合の指定ブロック長： 15, 963 byte
  - － 指定方法（F6425の場合）： 以下のように記述すること。

, DCB= (RECFM=FB, BLKSIZE=15963)

## 12. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の方法を説明する。

### 12.1 ロードモジュール構造図出力機能の稼働確認

JCLファイルのメンバ'STRCT'を修正し、実行する。

図12.1にジョブ制御文の修正箇所を示し、その説明をする。下線部が修正箇所であるが、実行時オプション、SYSIN制御文および項番のあるもの以外は“11.6 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。図12.2は、図12.1で示したジョブ制御文を実行して出力したドキュメントである。正常に稼働した場合は、これと同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を使用しない場合は日本語名は出力されない。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01.DFLOAD.LOAD, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=USER01.DFLOAD.IMAGELIB, DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX
//STRCT EXEC PGM=JSMH0000, REGION=2048K,
// PARM='STRCT(DCT, LEVEL=3, DUP), HANYO' ①
//SYSIN DD *
@MOPT M='TSTPRO01' ②
@POPT P=JMP, JZL
/*
//LOADLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.TESTLOAD, DISP=SHR ③
//JIMLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.NDICT, DISP=SHR ④
//JSMHCOT DD DSN=USER01.STRCT.HOZON, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), ⑤
// UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), VOL=SER=DASDXX
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHHLST DD SYSOUT=*
//
```

図12.1 ロードモジュール構造図出力機能稼働確認用ジョブ制御文

- ① PARMパラメタに実行時オプション'STRCT(DCT, LEVEL=3, DUP), HANYO'を指定する。日本語名標辞書を使用しない場合は、HANYOを指定せずにNOHANYOを指定する。
- ② SYSIN制御文に@MOPT制御文を指定し、M='TSTPRO01'を指定する。  
さらに、@POPT制御文を指定し、P=JMP, JZLを指定する。
- ③ LOADLIB DD文に稼働確認用ロードモジュールライブラリを指定する。
- ④ JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書を指定する。  
上記①の実行時オプションでNOHANYOを指定する場合は、JIMLIB DD文は指定しなくてもよい。
- ⑤ JSMHCOT DD文に出力先のロードモジュール構造図保存ファイルを指定する。  
上記①の実行時オプションでNODCTを指定した場合は、JSMHCOT DD文は指定しなくてもよい。



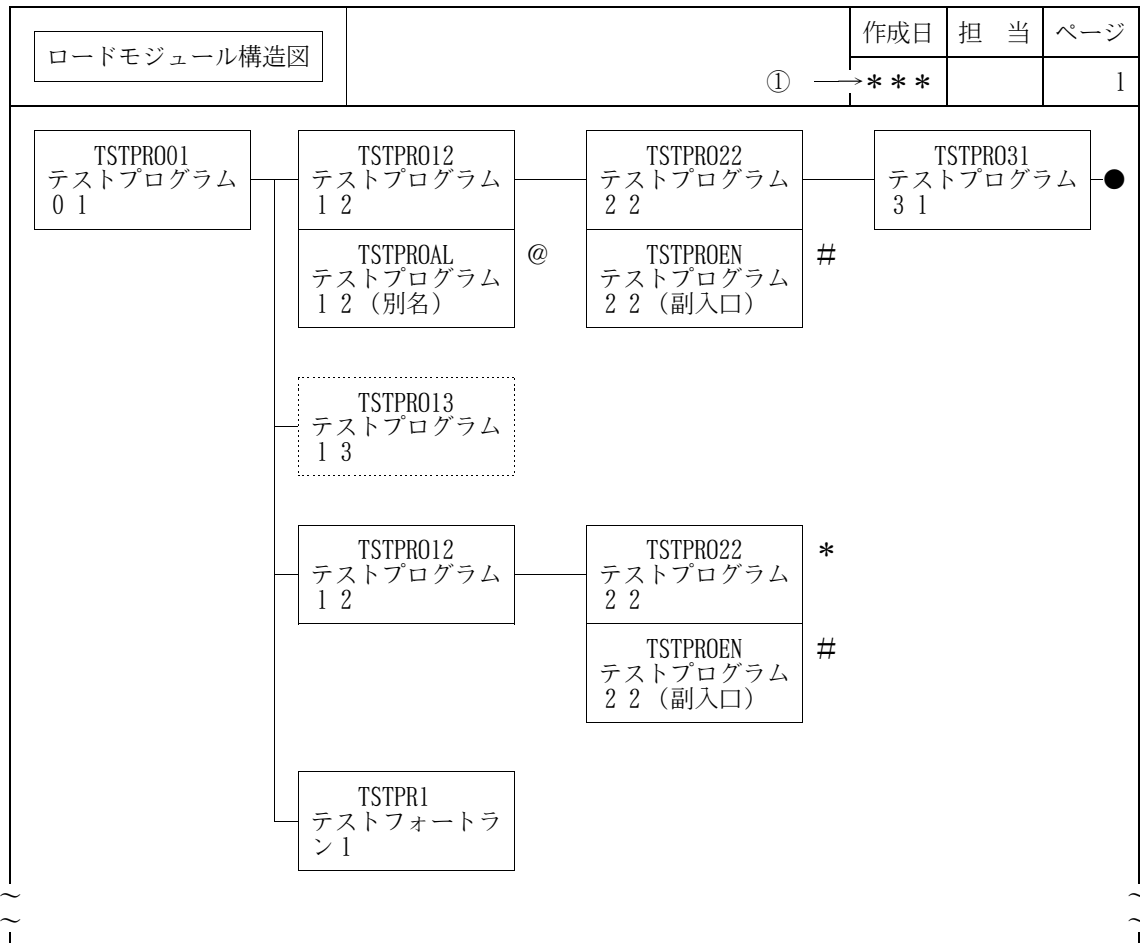


図12.2 ロードモジュール構造図出力機能のドキュメント

- ① ロードモジュール構造図を出力した日付が出力される。

## 12.2 ロードモジュール一覧出力機能の稼働確認

JCLファイルのメンバ'LIST'を修正し、実行する。

図12.3にジョブ制御文の修正箇所を示し、その説明をする。下線部が修正箇所であるが、実行時オプション、SYSIN制御文および項番のあるもの以外は“11.6 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。図12.4は、図12.3で示したジョブ制御文を実行して出力したドキュメントである。正常に稼働した場合は、これと同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を使用しない場合は日本語名は出力されない。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01.DFLOAD.LOAD, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=USER01.DFLOAD.IMAGELIB, DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX
//LIST EXEC PGM=JSMH0000, REGION=2048K,
// PARM='LIST(DCT,NOSORT), HANYO' ①
//SYSIN DD *
@MOPT M=ALL ②
/*
//LOADLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.TESTLOAD, DISP=SHR ③
//JIMLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.NDICT, DISP=SHR ④
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSOUT DD DUMMY
//JSMHHCOT DD DSN=USER01.LIST.HOZON, DISP=(NEW, CATLG, DELETE),
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE) ⑤
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHHLST DD SYSOUT=*
//

```

図12.3 ロードモジュール一覧出力機能稼働確認用ジョブ制御文

- ① PARMパラメタに実行時オプション'LIST(DCT,NOSORT), HANYO'を指定する。日本語名標辞書を使用しない場合は、HANYOを指定せずにNOHANYOを指定する。
  - ② SYSIN制御文に@MOPT制御文を指定し、M=ALLを指定する。
  - ③ LOADLIB DD文に稼働確認用ロードモジュールライブラリを指定する。
  - ④ JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書を指定する。
- 上記①の実行時オプションでNOHANYOを指定する場合は、JIMLIB DD文は指定しなくてもよい。
- ⑤ JSMHHCOT DD文に出力先のロードモジュール一覧保存ファイルを指定する。
- 上記①の実行時オプションでNODCTを指定した場合は、JSMHHCOT DD文は指定しなくてもよい。

ロードモジュール一覧							
No.	ロードモジュール名			言語	リンケージ情報		サイズ
	本	名	別名		LM作成日	V/L	
1	テストプログラム 0 1	TSTPRO01	TSTPROAL	COBOL85	12. 4. 19	05/45	768 488
2	テストプログラム 1 2	TSTPRO12		COBOL85	12. 4. 17	05/45	1,160
3	テストプログラム 2 1	TSTPRO21		COBOL85	12. 4. 17	05/45	1,160
4	テストプログラム 2 2	TSTPRO22		COBOL85	12. 4. 18	05/45	1,320
5	テストプログラム 3 1	TSTPRO31		COBOL85	12. 4. 17	05/45	1,160
6	テストプログラム 4 2	TSTPRO42		COBOL85	12. 4. 20	05/45	7,480
7	テストフォートラン 1	TSTPR1		ASM FORT 77 ASM	12. 4. 20	05/45	34,600
C S E C T 合計							47,648
P S E C T 合計							488

⇒続く

					作成日	担当	ページ
① →					****		1
続き⇒	モジュール属性	アドレス 拡張属性	主入口名	副入口名	注 釈		
	P, D, E, U  D D D  D	B-24 B-24 B-24 B-24  B-24 B-24  E-31	TTPRO01S TSTPRO01 TSTPRO12 TSTPRO21 TSTPRO22  TSTPRO31 TSTPRO42  TSTPR1	TSTPROEN TSTPROE2	認定プログラム		

図12.4 ロードモジュール一覧出力機能のドキュメント

① 作成日には、ロードモジュール一覧を出力した日付が出力される。

### 12.3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能の稼働確認

JCLファイルのメンバ 'DCHK' を修正し、実行する。

図12.5にジョブ制御文の修正箇所を示し、その説明をする。下線部が修正箇所であるが、実行時オプション、SYSIN制御文および項番のあるもの以外は“11.6 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。図12.6および図12.7は、図12.5で示したジョブ制御文を実行して出力したドキュメントであり、正常に稼働した場合は、これと同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を使用しない場合は日本語名は出力されない。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01. DFLOAD. LOAD, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=USER01. DFLOAD. IMAGELIB, DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX
//DCHK EXEC PGM=JSMH0000, REGION=2048K,
// PARM='DCHK(NOSORT), HANYO' ①
//SYSIN DD *
@MOPT M=ALL ②
/*
//LOADLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. TESTLOAD, DISP=SHR ③
//SOCLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. TESTSOC, DISP=SHR ④
//JIMLIB DD DSN=USER01. DFLOAD. NDICT, DISP=SHR ⑤
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHHLST DD SYSOUT=*
//

```

図12.5 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能稼働確認用ジョブ制御文

- ① PARMパラメタに実行時オプション 'DCHK(NOSORT), HANYO' を指定する。日本語名標辞書を利用しない場合は、HANYOを指定せずにNOHANYOを指定する。
- ② SYSIN制御文にM=ALLを指定する。
- ③ LOADLIB DD文に稼働確認用ロードモジュールライブラリを指定する。
- ④ SOCLIB DD文に稼働確認用ソースライブラリを指定する。
- ⑤ JIMLIB DD文に稼働確認用日本語名標辞書を指定する。

上記①の実行時オプションでNOHANYOを指定する場合は、JIMLIB DD文は指定しなくてもよい。

\*\*\* ロードモジュール／ソース作成日付チェック結果リスト \*\*\*

ロードモジュール ライブラリ	ソース ライブラリ
USER01. DFLOAD. TESTLOAD ③	USER01. DFLOAD. TESTSOC ④

ロードモジュール作成日とソース最終修正日が同一	3
ロードモジュール作成日がソース最終修正日より新しい	2
ロードモジュール作成日がソース最終修正日より古い	1
ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない	1
ソースライブラリにメンバが存在しない	0
ソース最終修正日を取得することができない	1
<hr/>	
メンバ数合計	8

図12.6 ロードモジュール／ソース作成日付チェック結果リストのドキュメント

- ① DF-LOADCHARTを実行した日付が出力される.
- ② DF-LOADCHARTを実行した時刻が出力される.
- ③ ロードモジュール ライブラリに稼働確認用ロードモジュールライブラリ名が出力される.
- ④ ソース ライブラリに稼働確認用ソースライブラリ名が出力される.

ロードモジュール／ソース 作成日付チェックリスト					⇒続く
No.	メ	ン	バ	名	
1	テストプログラム 0 1		TSTPRO01	COBOL85	12. 4. 19
2	テストプログラム 1 2		TSTPRO12	COBOL85	12. 4. 17
3	テストプログラム 2 1		TSTPRO21	COBOL85	12. 4. 17
4	テストプログラム 2 2		TSTPRO22	COBOL85	12. 4. 18
5	テストプログラム 3 1		TSTPRO31	COBOL85	12. 4. 17
6	テストプログラム 4 2		TSTPRO42	COBOL85	12. 4. 20
7	テストフォートラン 1		TSTPR1	FORT 77	12. 4. 20
8	テストプログラム 1 3		TSTPRO13		

				作成日	担当	ページ
① →				**.*.*		1
ソ ー ス 情 報			メ ッ セ ー ジ			
続き⇒	最終修正日	モジュール識別子	所有者名			
	12. 4. 19		010018	ロードモジュール作成日がソース最終修正日より古い ソース最終修正日を取得することができない		
	12. 4. 17		010018			
	12. 4. 17		010018			
	12. 4. 17		010018			
	12. 4. 18		010018			
	??.*.*			ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない		
	12. 4. 16		010018			
	12. 4. 16		010018			

図12.7 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能のドキュメント

① DF-LLOADCHARTを実行した日付が出力される。

## 12.4 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能の稼働確認

JCLファイルのメンバ 'SCHK' を修正し、実行する。

図12.8にジョブ制御文の修正箇所を示し、その説明をする。下線部が修正箇所であるが、実行時オプション, SYSIN制御文および項番のあるもの以外は“11.6 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。図12.9および図12.10は、図12.8で示したジョブ制御文を実行して出力したドキュメントであり、正常に稼働した場合は、これと同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.LOAD, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=USER01.DFLOAD.IMAGELIB, DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASDXX
//SCHK EXEC PGM=JSMH0000, REGION=2048K,
// PARM='SCHK(NOSORT)' ①
//SYSIN DD *
@MOPT M=ALL ②
@POPT P=JMP
/*
//LOADLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.GEMLOAD, DISP=SHR ③
//SOCLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.GEMSOC, DISP=SHR ④
//JSMH010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHHLST DD SYSOUT=*
//

```

図12.8 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能稼働確認用ジョブ制御文

- ① PARMパラメタに実行時オプション 'SCHK(NOSORT)' を指定する。
- ② SYSIN制御文にM=ALLを指定する。さらに、@POPT制御文を指定し、P=JMPを指定する。
- ③ LOADLIB DD文に稼働確認用ロードモジュールライブラリを指定する。
- ④ SOCLIB DD文に稼働確認用ソースライブラリを指定する。

## \*\* ロードモジュール／ソース作成日時チェック結果リスト \*\*

ロードモジュール ライブラリ

USER01. DFLOAD. GEMLOAD  
③

ソース ライブラリ

USER01. DFLOAD. GEMSOC  
④

LM中の翻訳日時はソース最新更新日時より新しい	5
LM中の翻訳日時とソース最新更新日時が同一	0
LM中の翻訳日時はソース最新更新日時より古い	2
ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない	6
ソースライブラリにメンバが存在しない	2
ロードモジュール翻訳日時を取得することができない	0
ソース最新更新日時を取得することができない	0
<hr/>	
メンバ数合計	15

最新更新日時：言語がCOBOL 85以外の場合は、最新更新日付。

図12.9 ロードモジュール／ソース作成日時チェック結果リストのドキュメント

- ① DF-LOADCHARTを実行した日付が出力される。
- ② DF-LOADCHARTを実行した時刻が出力される。
- ③ ロードモジュール ライブラリに稼働確認用ロードモジュールライブラリ名が出力される。
- ④ ソース ライブラリに稼働確認用ソースライブラリ名が出力される。



ロードモジュール／ソース 作成日時チェックリスト						⇒続く
No.	メンバ名	モジュール名	言語	ロード モジュール 作成日	ロードモジュール中 の翻訳日時	
1	TSTPRO01	TSTPRO01	COBOL85	12. 4. 17	12. 4. 17 10:36:18	
2		TSTPRO12	COBOL85		12. 4. 17 09:49:41	
3		TSTPR1	FORT 77		12. 4. 16	
4		TSTPRO11	COBOL85		12. 4. 17 09:49:40	
5	TSTPRO02	TSTPRO02	COBOL85	12. 4. 17	12. 4. 17 10:36:19	
6		TSTPRO23	COBOL85		12. 4. 17 09:49:44	
7		TSTPRO22	COBOL85		12. 4. 17 09:49:43	
8		TSTPRO21	COBOL85		12. 4. 17 09:49:42	
9	TSTPRO04	TSTPRO04	ASM	12. 4. 17	12. 4. 17	
10	TSTPRO03					
11	TSTPRO11					
12	TSTPRO12					
13	TSTPRO22					
14	TSTPRO23					
15	TSTPR1					

				作成日	担当	ページ
① →				**.*.*		1
ソース情報			メッセージ			
続き⇒	最新更新日時	所有者名	レベル			
	12. 4. 17 09:47:36	010018	5	L M中の翻訳日時はソース最新更新日時より古い		
	12. 4. 17 09:48:29	010018	2			
	12. 4. 17	010018	4			
	12. 4. 17 09:48:17	010018	2			
	12. 4. 17 09:48:05	010018	3			
	12. 4. 17 09:48:59	010018	2			
	12. 4. 17 10:38:28	010018	3	L M中の翻訳日時はソース最新更新日時より古い ソースライブラリにメンバが存在しない ソースライブラリにメンバが存在しない ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない		
	12. 4. 17 09:47:48	010018	2			
	12. 4. 17 09:48:17	010018	2			
	12. 4. 17 09:48:29	010018	2			
	12. 4. 17 10:38:28	010018	3			
	12. 4. 17 09:48:59	010018	2			
	12. 4. 17 09:48:49	010018	4			

図12.10 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能のドキュメント

① DF-LOADCHARTを実行した日付が出力される。

### 13. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、当ソフトウェアを使用されたい。

#### A) フォーマットの変換方法

当プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図13.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、当ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。

◆【1】3.1.4.2

#### 【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

#### 【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図13.1 フォーマットの変換方法

#### 1) キー部

##### ー 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

##### ー 順序番号

順序番号に '01' が設定される。

#### 2) レコード数

レコード数に01が設定される。

#### 3) 有効文字数

有効文字数に30が設定される。

#### 4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

#### 5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

B) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

当プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図13.2に示す。

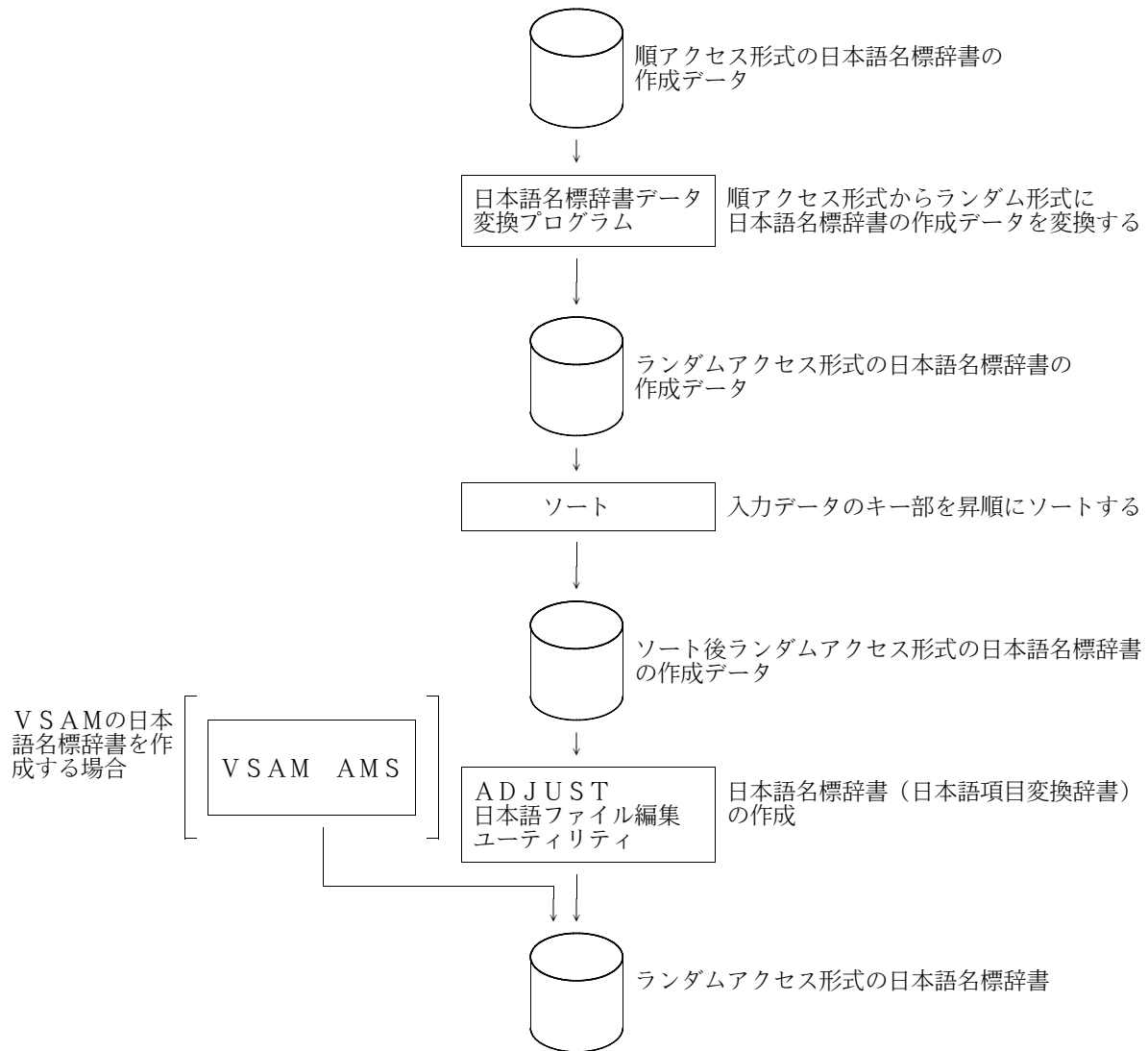


図13.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

### C) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文の例を図13.3に示し、説明する。ユーティリティ用 JCL ファイル中のメンバ名は 'JSMHDICT' である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書を VSAM で作成しない場合は、KQCAMS1 のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01 JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          日本語名標辞書          再創成          *
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=SHR          ①
//          DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR          ②
//          DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR          ③
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEF CLUSTER
(NAME (USER01.RAN.NDICT))          ④
INDEXED
UNIQUE
KEYS (30 0)
IMBED
VOLUMES (DASDXX)          ⑤
TRK (5)          ⑥
RECORDSIZE (124 124)
DATA
(NAME (USER01.RAN.NDICT.DATA))          ⑦
INDEX
(NAME (USER01.RAN.NDICT.IDX))          ⑧
/*
//*****
//**          日本語名標辞書 入力データ変換 JCL          *
//**          順アクセス→ランダムアクセス          *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMHDICT,REGION=1024K
//JSM MJUN DD DSN=USER01.JUN.NDATA,DISP=SHR          ⑨
//JSM MRAN DD DSN=&&RAN,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240),
//          SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)          ⑩
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*****
//**          ソート          *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORT IN DD DSN=&&RAN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORT OUT DD DSN=&&DFLOAD,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(TRK,(50,50),RLSE),          ⑩
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20),RLSE)
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
/*

```

図13.3 日本語名標辞書データコンバートプログラムのジョブ制御文例（続く）

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//*****
//**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
//*****
//JAFE1      EXEC   PGM=JRQJAFE, REGION=1024K
//SYSPRINT   DD     SYSOUT=*
//SYSLIST    DD     DUMMY
//SYSIN      DD     *
-   ADD OUT(JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
-   FORMAT   SAME
-   CHGIN    IN(CHGLIB)
-   END
/*
//JAFLIB     DD     DSN=USER01.RAN.NDICT, DISP=SHR
//CHGLIB     DD     DSN=&&DFLOAD, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//

```

図13.3 日本語名標辞書データコンバートプログラムのジョブ制御文例（続き）

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 8 5 ライブラリ，ADJUST など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。  
注）ADJUST ロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑤ VSAM の日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の VSAM データセットの割当て容量を指定する。
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑨ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのデータセットを指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する。

VSAM の場合は，④ のクラスタ名を指定し，順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は，レコードが 1 2 4 バイトの固定長レコード形式のデータセットを指定する。

#### D) 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- ー キー部のデータに重複しているものがあるなど，入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても，当プログラムはチェックおよびエラー処理を行わないので，そのまま変換される。
- ー ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは 2 8 バイト以内でなければならないので，順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に 2 9 バイト以上のデータがある場合，2 9 バイト以降が切り捨てて変換される。

## 14. 日本語名標辞書作成支援プログラム

このプログラムは、当ソフトウェアで使用する日本語名標辞書の作成を支援するプログラムである。なお、日本語名標辞書作成支援プログラムの詳細は、適用マニュアルを参照されたい。 ◆参照 → 16

### 14.1 日本語名標辞書作成支援プログラム1

ロードモジュール一覧出力のCSV形式ファイルを入力として、日本語変換の対象となる単語（英数字）を出力する。

日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文の例を図14.1に示し、説明する。ユーティリティ用JCLファイル中のメンバ名は'JSMHDS1'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR _____ ③
//*****日本語名標辞書作成支援プログラム1*****
//*
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMHDS1,REGION=1024K,
// PARM='ISL=8,IPL=0,UNIQUE'
//JSMHCSV DD DSN=USER01.LIST.CSV,DISP=SHR _____ ④
//JSMHWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE), _____ ⑤
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=90,BLKSIZE=3154) _____ ⑥
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//
```

図14.1 日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書作成支援プログラム1のロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカATALOG名を指定する。
- ④ 入力となるロードモジュール一覧出力のCSV形式ファイルを指定する。
- ⑤ 出力となるロードモジュール単語ファイルを指定する。
- ⑥ 出力となるロードモジュール単語ファイルの割当て容量を指定する。

#### 14.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2

ロードモジュール単語ファイルを入力として、日本語名標辞書を作成する。

日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文の例を図14.2に示し、説明する。ユーティリティ用JCLファイル中のメンバ名は'JSMHDS2'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.DFLOAD,UTYLOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR ③
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム2 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMHDS2,REGION=1024K
//JSMHWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=SHR ④
//JSMHHRAN DD DSN=&&DFLOAD,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240) ⑤
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//*****
//* DEFINE CLUSTER *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
// COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
(NAME(USER01.RAN.NDICT)) - ⑥
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS(30 0) -
IMBED -
VOLUMES(DASDXX) - ⑦
TRK(5) - ⑧
RECORDSIZE(124 124) -
DATA -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA)) - ⑨
INDEX -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IDX)) ⑩
/*
//*****
//** 日本語ファイル編集ユーティリティ *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE,REGION=1024K,
// COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR ⑪
//CHGLIB DD DSN=&&DFLOAD,DISP=(OLD,DELETE)
//

```

図14.2 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例

- ① 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 のロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 8 5 ライブラリ, ADJUST など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。  
注) ADJUST ロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 入力となるロードモジュール単語ファイルを指定する。
- ⑤ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑦ VSAM の日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の VSAM データセットの割当て容量を指定する。
- ⑨ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する。

VSAM の場合は, ⑥ のクラスタ名を指定し, 順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は, レコードが 1 2 4 バイトの固定長レコード形式のデータセットを指定する。



## 15. ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラム

このプログラムは、V21L10以前で作成したロードモジュール一覧保存ファイルを、当ソフトウェアで使用可能とするためにロードモジュール一覧保存ファイルを変換する。

ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムのジョブ制御文例を図15.1に示し、説明する。ユーティリティ用JCLファイル中のメンバ名は'JSMHCCIN'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR ②
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR ③
//*****
//* ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラム *
//*****
//CONV EXEC PGM=JSMHCCIN,REGION=1024K
//JSMHCOLD DD DSN=USER01.LIST.HCINOLD,DISP=SHR ④
//JSMHCNEW DD DSN=USER01.LIST.HCINNEW,DISP=(NEW,CATLG,DELETE), ⑤
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,BLKSIZE=4176) ⑥
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//

```

図15.1 ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムのジョブ制御文例

- ① ロードモジュール一覧保存ファイル変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 変換元のロードモジュール一覧保存ファイルを指定する。
- ⑤ 変換後のロードモジュール一覧保存ファイルを指定する。
- ⑥ 変換後のロードモジュール一覧保存ファイルの割当て容量を指定する。

## 16. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称	マニュアルコード
OS IV SIMPLIA/DF-LOADCHART 解説書	J1M0-9110-01

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
1	7	2.1.1 ロードモジュール構造図出力機能	(記述追加)	- ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力形式
2	7	2.1.1.1 概要	本機能はロードモジュールライブラリ又はロードモジュール構造図保存ファイルを入力し、モジュールの呼出し関係を階層化して出力する。このとき、モジュール名は、日本語名標辞書を索引し日本語に変換して出力することができる。ロードモジュール構造図の出力例を図2.1に示す。	本機能はロードモジュールライブラリ又はロードモジュール構造図保存ファイルを入力し、モジュールの呼出し関係を階層化して出力する。呼び出し関係の階層情報は、CSV形式ファイルとして出力することもできる。モジュール名は、日本語名標辞書を索引し日本語に変換して出力することができる。ロードモジュール構造図の出力例を図2.1に、CSV形式ファイルの出力例を図2.1-1に示す。
3	8	図2.1-1 ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力例	ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力例を追加 ◆参照 → 16. 1	
4	13	2.1.1.2 ロードモジュール構造図の出力形式 [図2.2 及び図2.3の説明]	(記述追加)	メインモジュールの構造図出力 ロードモジュール構造図出力時に、メインモジュール（他のモジュールから呼ばれていないモジュール）の構造図のみを出力することができる。 また、利用者が指定したモジュールの呼出し起点となるメインモジュールの構造図を出力することもできる。
5	13	2.1.1.3 ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力形式	(記述追加)	2.1.1.3 ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力形式  本項では、ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力形式について述べる。  出力形式 ロードモジュール構造図CSV形式ファイルでは、図2.6-1に示すように、呼び出すモジュールの呼出し関係が、レコード（行）の出力順およびレコードの左から右へとCSV形式で出力される。 各フィールドは、引用符（ダブルクォート）で囲まれない。
6	13	図2.6-1 ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力形式	ロードモジュール構造図CSV形式ファイルの出力形式を追加 ◆参照 → 16. 2	

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）														
7	14	2.1.2 ロードモジュール一覧出力機能	（記述追加）	- ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力形式														
8	14	2.1.2.1 概要	本機能はロードモジュールライブラリ又はロードモジュール一覧保存ファイルを入力し、指定したロードモジュールの詳細情報を一覧にして出力する。このとき、ロードモジュール名（本名）は、日本語名標辞書を索引し日本語に変換して出力することができる。また、出力内容は、英数字名順、日本語名順、又は、日付順のいずれかでソートできる。 なお、解析対象メンバは、本名のみである。 ロードモジュール一覧の出力例を図2.7 に示す。	本機能はロードモジュールライブラリ又はロードモジュール一覧保存ファイルを入力し、指定したロードモジュールの詳細情報を一覧にして出力する。詳細情報の一覧は、CSV形式ファイルとして出力することもできる。ロードモジュール名（本名）は、日本語名標辞書を索引し日本語に変換して出力することができる。また、出力内容は、英数字名順、日本語名順、又は、日付順のいずれかでソートできる。 なお、解析対象メンバは、本名のみである。 ロードモジュール一覧の出力例を図2.7 に、CSV形式ファイルの出力例を図2.7-1 に示す。														
9	15	図2.7-1 ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力例	ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力例を追加 ◆参照 → 16.3															
10	18	〔図2.8の説明〕 注5）アドレス拡張属性の表記方法を次に示す。	<table><tr><td>形 式</td><td></td></tr><tr><td>F J形式</td><td></td></tr><tr><td>X A－A E形式</td><td></td></tr><tr><td>(OS IV/MSPのみ)</td><td></td></tr></table>	形 式		F J形式		X A－A E形式		(OS IV/MSPのみ)		<table><tr><td>形 式</td><td></td></tr><tr><td>F J形式</td><td></td></tr><tr><td>X A－A E形式</td><td></td></tr></table>	形 式		F J形式		X A－A E形式	
形 式																		
F J形式																		
X A－A E形式																		
(OS IV/MSPのみ)																		
形 式																		
F J形式																		
X A－A E形式																		
11	19	2.1.2.3 ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力形式	（記述追加）	2.1.2.3 ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力形式  本項では、ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力形式について述べる。  出力形式 ロードモジュール一覧CSV形式ファイルでは、図2.8-1に示すように、指定されたメンバに関する情報が、CSV形式で出力される。 各フィールドは、引用符（ダブルクォート）で囲まれない。														
12	19	図2.8-1 ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力形式	ロードモジュール一覧CSV形式ファイルの出力形式を追加 ◆参照 → 16.4															
13	19	2.1.3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能	（記述追加）	- ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV形式ファイルの出力形式														

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）
1 4	19	2.1.3.1 概要	<p>本機能はロードモジュールライブラリ及びソースプログラムライブラリを入力し、指定されたメンバ名のロードモジュール作成日とソースプログラム最終修正日を中心に、同期チェックの為の情報を出力する。このとき、メンバ名は日本語名標辞書を索引し日本語に変換して出力することができる。また、出力内容は、英数字名順、日本語名順、日付順、ユーザ識別（所有者名）順、又はモジュール識別順のいずれかでソートできる。</p> <p>なお、解析対象メンバは本名のみである。</p> <p>ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストの出力例を、図2.9 に示す。</p>	<p>本機能はロードモジュールライブラリ及びソースプログラムライブラリを入力し、指定されたメンバ名のロードモジュール作成日とソースプログラム最終修正日を中心に、同期チェックの為の情報を出力する。同期チェックの情報は、CSV 形式ファイルとして出力することもできる。このとき、メンバ名は日本語名標辞書を索引し日本語に変換して出力することができる。また、出力内容は、英数字名順、日本語名順、日付順、ユーザ識別（所有者名）順、またはモジュール識別順のいずれかでソートできる。</p> <p>なお、解析対象メンバは本名のみである。</p> <p>ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストの出力例を図2.9 に、CSV 形式ファイルの出力例を図2.9-1 に示す。</p>
1 5	20	図2.9-1 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力例	ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力例を追加	◆参照 → 1 6 . 5
1 6	23	2.1.3.3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式	（記述追加）	<p>2.1.3.3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式</p> <p>本項では、ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式について述べる。</p> <p>出力形式 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルでは、図2.10-1に示すように、指定されたメンバのロードモジュールとソースプログラムに関する情報が、CSV 形式で出力される。</p> <p>各フィールドは、引用符（ダブルクォート）で囲まれない。</p>
1 7	23	図2.10-1 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式	ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式を追加	◆参照 → 1 6 . 6
1 8	23	2.1.4 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能	（記述追加）	<p>- ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式</p>

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）
19	23	2.1.4.1 概要	<p>本機能はロードモジュールライブラリ及びソースプログラムライブラリを入力し、指定されたメンバ名のロードモジュール作成日とソースプログラム最終修正日時を中心に、同期チェックの為の情報を出力する。出力内容は、英数字名順、ロードモジュール作成日順のいずれかでソートできる。</p> <p>静的結合されているロードモジュールについても同期チェックの為の情報を出力できる。</p> <p>なお、解析対象メンバは本名のみである。</p> <p>ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストの出力例を図2.11に示す。</p>	<p>本機能はロードモジュールライブラリ及びソースプログラムライブラリを入力し、指定されたメンバ名のロードモジュール中の翻訳日時とソースプログラム最終修正日時を中心に、同期チェックの為の情報を出力する。同期チェックの情報は、CSV形式ファイルとして出力することもできる。出力内容は、英数字名順、ロードモジュール作成日順のいずれかでソートできる。</p> <p>静的結合されているロードモジュールについても同期チェックの為の情報を出力できる。</p> <p>なお、解析対象メンバは本名のみである。</p> <p>ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストの出力例を図2.11に、CSV形式ファイルの出力例を図2.11-1に示す。</p>
20	24	図2.11-1 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力例	ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力例を追加	◆参照 → 16.7
21	27	2.1.4.3 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力形式	（記述追加）	<p>2.1.4.3 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力形式</p> <p>本項では、ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力形式について述べる。</p> <p>出力形式</p> <p>ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルでは、図2.12-1に示すように、指定されたメンバのロードモジュールとソースプログラムに関する情報が、CSV形式で出力される。</p> <p>各フィールドは、引用符（ダブルクォート）で囲まれない。</p>
22	27	図2.12-1 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力形式	ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイルの出力形式を追加	◆参照 → 16.8
23	37	2.2.2.2 ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード形式	保存ファイルの項目に翻訳V／Lを追加	◆参照 → 16.9

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）
2 4	40	図3.1 DF-LOADCHARTの実行に必要な入出力データセットとDD名	（記述追加）	（記述内容の説明） DF-LOADCHARTの出力データセットに以下のDD名とデータセット名を追加 DD名：JSMHHCSV データセット名： - ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル - ロードモジュール一覧CSV 形式ファイル - ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル - ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイル
2 5	42	3.1.2.1 オプションの記述形式	$\left[ , \text{LEVEL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\} \right]$	$\left[ , \text{LEVEL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\} \right]$ (注)
			$\left[ , \text{JTRN} = \left\{ \frac{16}{n} \right\} \right] )$	$\left[ , \text{JTRN} = \left\{ \frac{16}{n} \right\} \right]$ $\left[ , \left\{ \begin{array}{c} \text{ALL} \\ \text{MAIN} \\ \text{SUB} \end{array} \right\} \right] )$
			$\left[ , \left\{ \begin{array}{c} \text{HANYO} \\ \text{NOHANYO} \end{array} \right\} \right]$ $\left[ , \text{ISL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\} \right]$ $\left[ , \text{IPL} = \left\{ \frac{0}{n} \right\} \right]$ $\left[ , \text{FOP} = \text{フォームオーバーレイパター名} \right]$	$\left[ , \left\{ \begin{array}{c} \text{HANYO} \\ \text{NOHANYO} \end{array} \right\} \right]$ $\left[ , \text{ISL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\} \right]$ $\left[ , \text{IPL} = \left\{ \frac{0}{n} \right\} \right]$ $\left[ , \left\{ \begin{array}{c} \text{CSV} \\ \text{NOCSV} \end{array} \right\} \right]$ $\left[ , \text{FOP} = \text{フォームオーバーレイパター名} \right]$
			（記述追加）	（記述内容の説明） オプションの記述形式の下にある説明文の最後に以下を追加 ..... 注) CSV オプション指定時には省略値は26となる。

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述 (誤)	新 記 述 (正)
2 6	43	3.1.2.2 オプションの意味	$\text{LEVEL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\}$ <p>ドキュメントキーワードがSTRC T の場合のみ意味をもつ．ロードモジュール構造図の最大出力階層を 1 ～ 8 の数字で指定する．</p>	$\text{LEVEL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\}$ <p>ドキュメントキーワードがSTRC T の場合のみ意味をもつ．ロードモジュール構造図の最大出力階層を 1 ～ 8 の数字で指定する． ただし，CSV オプション指定時は，最大出力階層を 1 ～ 26 の数字で指定する．</p>
			$\text{JTRN} = \left\{ \frac{16}{n} \right\}$ <p>ドキュメントキーワードがSTRC T の場合でかつHANYO オプション指定時のみ意味をもつ．日本語文字を出力する場合において，その出力文字数を 1 ～ 30 の数字で指定する．</p>	$\text{JTRN} = \left\{ \frac{16}{n} \right\}$ <p>ドキュメントキーワードがSTRC T の場合でかつHANYO オプション指定時のみ意味をもつ．日本語文字を出力する場合において，その出力文字数を 1 ～ 30 の数字で指定する． ただし，CSV オプション指定時は，' JTRN ' 指定は無効となる．</p>
			(記述追加)	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{MAIN} \\ \text{SUB} \end{array} \right\}$ <p>ドキュメントキーワードがSTRC T の場合に意味をもつ．</p> <p>ALL : 解析対象の走査条件に指定されたメンバ（モジュール）を起点として，ロードモジュール構造図を出力する場合</p> <p>MAIN : 解析対象の走査条件に指定されたメンバ（モジュール）からメインモジュール（他のモジュールから呼ばれていない）のみを起点としたロードモジュール構造図を出力する場合</p> <p>SUB : 解析対象の走査条件に指定されたメンバ（モジュール）の呼出し起点となるメインモジュールのロードモジュール構造図を出力する場合</p> <p>' SUB ' 指定時は，起点となるメインモジュールからLEVEL オプションにて指定された階層までが解析対象となる．したがって，走査条件に指定したメンバ（モジュール）が，LEVEL オプションにて指定された階層内に存在しない場合，ロードモジュール構造図は出力されない． なお，' MAIN ' 及び ' SUB ' 指定時には，INDIRECT, DCT , ONLYオプションは指定できない．</p>

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）
			（記述追加）	$\left\{ \begin{array}{l} \text{CSV} \\ \text{NOCSV} \end{array} \right\}$ ドキュメントキーワードで指定した各機能の情報をCSV 形式ファイルとして出力する場合は、'CSV' を、CSV 形式ファイルとして出力しない場合は、'NOCSV' を指定する。 ただし、ONLYオプション指定時は、'CSV' 指定は無効となる。
27	51	3.1.3.5 注意事項	（記述追加）	走査条件指定制御文について、SUB オプションを指定した場合、走査条件指定制御文のメンバ選択制御文において、MEMBER全件指定（MEMBER=ALL）は行えない。
			（記述追加）	出力抑制指定制御文について、出力抑制指定制御文で指定されたメンバ（モジュール）は、SUB オプション指定時に検索対象とならない。
			（記述追加）	業務区分指定制御文について、CSV オプションを指定した場合、業務区分指定制御文は無効となる。
28	52	表3.2 DF-LOADCHARTの実行に必要なDD文とその用途	IMAGELIBのブロック長を変更 JSMHHCINのレコード長を変更 JSMHHCOTのレコード長を変更 JSMHH010のレコード長を変更 CSV 形式ファイルのDD文の説明を追加 ◆参照 → 16.10	
29	55	3.1.4.12 JSMHHC SV DD文	（記述追加）	3.1.4.12 JSMHHC SV DD文 CSV 形式ファイルを出力するデータセットを指定するジョブ制御文である。 各CSV 形式ファイルの出力を行う場合、本DD文を指定しなければならない。
30	56	図3.14 ロードモジュール構造図出力機能の実行に必要な入出力データセットとDD名	（記述追加）	（記述内容の説明） DF-LOADCHARTの出力データセットに以下のDD名とデータセット名を追加 DD名：JSMHHC SV データセット名： - ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル
31	57	3.2.1 ロードモジュール構造図を出力する場合	ロードモジュール構造図CSV 形式ファイルのジョブ制御文例を追加 ◆参照 → 16.11	
32	58	図3.17 ロードモジュール一覧出力機能の実行に必要な入出力データセットとDD名	（記述追加）	（記述内容の説明） DF-LOADCHARTの出力データセットに以下のDD名とデータセット名を追加 DD名：JSMHHC SV データセット名： - ロードモジュール一覧CSV 形式ファイル
33	59	3.2.2 ロードモジュール一覧を出力する場合	ロードモジュール一覧CSV 形式ファイルのジョブ制御文例を追加 ◆参照 → 16.12	



表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）
3 4	61	図3.20 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能の実行に必要な入出力データセットとDD名	（記述追加）	（記述内容の説明） DF-LOADCHARTの出力データセットに以下のDD名とデータセット名を追加 DD名：JSMHHCSV データセット名： - ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル
3 5	63	3.2.3 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストを出力する場合	ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルのジョブ制御文例を追加 ◆参照 → 16.13	
3 6	64	図3.23 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能の実行に必要な入出力データセットとDD名	（記述追加）	（記述内容の説明） DF-LOADCHARTの出力データセットに以下のDD名とデータセット名を追加 DD名：JSMHHCSV データセット名： - ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイル
3 7	66	3.2.4 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストを出力する場合	ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイルのジョブ制御文例を追加 ◆参照 → 16.14	
3 8	70	図4.1 システム構成	（記述追加）	（記述内容の説明） DF-LOADCHARTの出力としてCSV形式ファイルを追加 各ドキュメントと選択になる．
3 9	71	図4.2 プロセスフロー	（記述追加）	（記述内容の説明） CSV 形式ファイルを，出力帳票および保存ファイルと同じ扱いで追加
4 0	72	表4.2 DASD容量見積り	ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード長を変更 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル ロードモジュール一覧CSV 形式ファイル ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイル のDASD容量見積りを追加 ◆参照 → 16.15	
4 1	75	4.6.5 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力時の制限・注意事項	- COBOL85 プログラムの場合，COBOL85 ライブラリサブルーチンの出力抑制をするのが望ましい． 出力抑制指示制御文で以下のようにCOBOL85 ライブラリサブルーチンの接頭語を指定する．	- 静的結合されているロードモジュールも同期チェックの対象となる． COBOL85 プログラムにおいて，COBOL85 ライブラリサブルーチンが静的結合されている場合，COBOL85 ライブラリサブルーチンの出力抑制をするのが望ましい． 出力抑制指示制御文で以下のようにCOBOL85 ライブラリサブルーチンの接頭語を指定する．
4 2	76	4.6.6 保存ファイル使用時の制限・注意事項	（記述追加）	- ロードモジュール構造図出力において，MAIN, SUB オプション指定時には，保存ファイルは使用できない．

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続き）

項番	ページ	行・位置	旧 記 述（誤）	新 記 述（正）
4 3	77 86 88	第5章 診断メ ッセージ	JSMHC001-Sの説明を変更 JSMHC040-S, JSMHC041-U, JSMHS009-Iの説明を追加 ◆参照 → 1 6 . 1 6	
4 4	98	B.2 .ロードモジ ュール構造図出力 及びロードモジ ュール構造図保存フ ァイル作成	見積り式の説明を変更 ◆参照 → 1 6 . 1 7	
4 5	—	付録C 日本語名 標辞書作成支援プ ログラム	日本語名標辞書作成支援プログラムの説明を追加 ◆参照 → 1 6 . 1 8	
4 6	—	付録D DF-LOADC HARTのプロフィー ル取得方法	DF-LOADCHARTのプロフィール取得方法の説明を追加 ◆参照 → 1 6 . 1 9	

16.1 図2.1-1 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイルの出力例

【日記述】

(記述追加)

【新記述】

[illegible]

注) “~”は省略を, “↓”はレコード(行)の終わり(改行)を示す.

図2.1-1 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイルの出力例

### 16.2 図2.6-1 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイルの出力形式

【日記述】

(記述追加)

【新記述】

[illegible]

注) “~”は省略を, “↓”はレコード(行)の終わり(改行)を示す.

図2.6-1 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイルの出力形式

「図2.6-1 の説明」

## ① CSV 形式ファイルのヘッダ情報 1

CSV 形式ファイルの種類（ロードモジュール構造図）とCSV 形式ファイルの作成日が出力される。

## ② CSV 形式ファイルのヘッダ情報 2（明細の“種別”に出力される記号の注釈）

ロードモジュールの種別を示す記号とその意味が出力される。

- 1) @ : 別名
- 2) # : 副入口名
- 3) ? : 未解決外部参照
- 4) E : ライブラリに存在しないロードモジュール

③ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3（明細の“抑制”に出力される記号の注釈）

出力抑制を示す記号とその意味が出力される。

- 1) \* : 重複モジュールの出力抑制
- 2) L : 階層制限による出力打ち切り
- 3) ! : 解析不能による出力打ち切り

④ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 4（明細に対するヘッダ情報）

階層を示す見出しが出力される。

階層はLEVEL オプションで指定した階層まで出力される。（最大26階層）

⑤ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 5（明細に対するヘッダ情報）

以下の見出しが出力される。

- 1) モジュール名
- 2) 別名又は副入口名

⑥ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 6（明細に対するヘッダ情報）

以下の見出しが出力される。

- 1) A/N
- 2) 日本語名
- 3) 種別
- 4) 抑制

⑦ CSV 形式ファイルの明細情報

ロードモジュール構造図の情報が出力される。

呼出し関係がレコードの出力順およびレコードの左から右へ出力される。

起点のロードモジュールからLEVEL オプションで指定した階層（最大26階層）までの情報が出力される。

出力される 1 階層分の情報を、フィールド単位に説明する。

- 1) モジュール名が英数字で出力される。
- 2) PARMパラメタで日本語名出力の指定がある場合に、英数字のモジュール名が日本語変換され出力される。
- 3) 別名又は副入口名で呼ばれた場合、別名又は副入口名が英数字で出力される。
- 4) PARMパラメタで日本語出力の指定がある場合に、英数字の別名又は副入口名が日本語変換され出力される。
- 5) ②で説明している種別を示す記号が出力される。
- 6) ③で説明している抑制を示す記号が出力される。

※出力される情報は、ロードモジュール構造図と同じであるため、情報の詳細については、

“2.1.1.2 ロードモジュール構造図の出力形式”を参照されたい。

なお、CSV 形式ファイルは基本的にレコード単位での情報となるため、図2.2 及び図2.3 のロードモジュール構造図とは異なり、呼出し元のモジュールの情報が必ず出力される。

例：図2.2 において，3 段目の最初のボックス(\*1)に出力されているAPBLD1C2（マスタ情報ファイル更新）の左側には，呼出し元のAPBLD1B1（共通ファイル創成）のボックスが出力されていない。

図2.6-1 において，9 レコード目に2 階層目の情報として出力されているAPBLD1C2（マスタ情報ファイル更新）の左側（1 階層目の情報）には，呼出し元のAPBLD1B1（共通ファイル創成）が出力されている。

\*1：呼出しの階層としては2 階層目となる。なお，起点のAPBLD0A1（DB／DS 環境設定）は階層には数えない。

※④～⑥のヘッダ情報は，3 レコード（行）で一つのヘッダ情報となる。

## 【旧記述】

(記述追加)

## 【新記述】

```

***** ロードモジュール一覧 *****,,,,,2012/10/22 ↓
,,ロードモジュール名,,,,,C S E C T,,, P S E C T ↓
NO. ,, 日本語名, 本名, 別名, 言語, 翻訳V/L, 言語, 言語, 言語, LM作成日, V/L,
モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性,
モジュール属性, サイズ, アドレス拡張属性, 主入口名, サイズ, アドレス拡張属性, 主入口名, 副入口名, 注釈 ↓
1, 0, D B / D S 環境設定, APBLDOA1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 11824, E-31, ABLDOA1P, 193520, B-31, APBLDOA1,, 認定プログラム ↓
2, 0, 共通ファイル創成, APBLD1B1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 5552, E-31, ABLD1B1P, 4000, B-31, APBLD1B1,, 認定プログラム ↓
3, 0, 共通ファイル出力制御, APBLD1B2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 25424, E-31, ABLD1B2P, 7912, B-31, APBLD1B2,, 認定プログラム ↓
4, 0, マスタ情報ファイル創成, APBLD1C1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,,, 4112, E-31, ABLD1C1P, 140520, B-31, APBLD1C1,, 認定プログラム ↓
5, 0, マスタ情報ファイル更新, APBLD1C2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 1176, E-31, ABLD1C2P, 1048, B-31, APBLD1C2,, 認定プログラム ↓
6, 0, D B / D S ログファイル更新制御, APBLD1C3,, COBOL85, V11L20, ASM,,, 1995/8/25, V05L45,,, , 40760, B-24, APBLD1C3,,, ↓
7, 0, 共通ファイル出力チェック, APBLD1C4,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 13360, E-31, ABLD1C4P, 21368, B-31, APBLD1C4,, 認定プログラム ↓
8, 0, マスタ情報ファイル照会出力, APBLD1D1, APBLD1DB, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 1384, E-31, ABLD1D1P, 1680, B-31, APBLD1D1,, 認定プログラム ↓
9, 0, 会員情報ファイル入力, APBLD1D3,, COBOL85, V11L20, ASM,,, 1995/8/25, V05L45,,, , 257432, B-24, APBLD1D3,,, ↓
10, 0, ログファイル更新データ収集, APBLD1D4,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 960, E-31, ABLD1D4P, 520, B-31, APBLD1D4,, 認定プログラム ↓
11, 0, ログファイル更新データチェック, APBLD1D5,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,,, 15376, E-31, ABLD1D5P, 15048, B-31, APBLD1D5,, 認定プログラム ↓
12, 0, マスタ情報ファイル画面出力, APBLD1E1,, ASM, V02L20,,, 1989/5/29, V05L30, E, U,,, , 312, B-24, APBLD1E1,,, 認定プログラム ↓
13, 0, マスタ情報ファイル帳票出力, APBLD1E2,, ASM, V02L20,,, 1989/5/29, V05L30, E, U,,, , 240, B-24, APBLD1E2,,, 認定プログラム ↓
14, 0, 会員情報付加, APBLD1E3,, COBOL85, V11L20, ASM,,, 1995/8/25, V05L45,,, , 212864, B-24, APBLD1E3,,, APBLD1EE, ↓
15, 0, 会員情報ファイル更新チェック, APBLD1F1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 1528, E-31, ABLD1F1P, 552, B-31, APBLD1F1,, 認定プログラム ↓
16, 0, 会員別売上明細レコード編集, APBLD1G1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,,, 9568, E-31, ABLD1G1P, 18256, B-31, APBLD1G1,, 認定プログラム ↓
17, 0, 月別売上明細編集, APBLD1G2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,,, 10032, E-31, ABLD1G2P, 15984, B-31, APBLD1G2,, 認定プログラム ↓
18, 0, 売上内容比較, APBLD1H1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 3552, E-31, ABLD1HIP, 3880, B-31, APBLD1H1,, 認定プログラム ↓
19, 0, 顧客別売上状況チェック 1, APBLD1I1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 9328, E-31, ABLD1I1P, 7592, B-31, APBLD1I1,, 認定プログラム ↓
20, 0, 顧客別売上状況チェック 2, APBLD1I2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 4024, E-31, ABLD1I2P, 2336, B-31, APBLD1I2,, 認定プログラム ↓
,, 合計,,,,, 628808,, 434216 ↓

```

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.7-1 ロードモジュール一覧CSV 形式ファイルの出力例

## 【旧記述】

(記述追加)

## 【新記述】

```

①***** ロードモジュール一覧 *****,,,,,2012/10/22 ↓
②,,ロードモジュール名,,,,,,,,,C S E C T,,, P S E C T ↓
③N O. ,,日本語名, 本名, 別名, 言語, 翻訳V/L, 言語, 言語, 言語, L M作成日, V/L,
  モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性, モジュール属性,
  モジュール属性, サイズ, アドレス拡張属性, 主入口名, サイズ, アドレス拡張属性, 主入口名, 副入
  口名, 注釈 ↓
④1, 0, D B / D S 環境設定, APBLD0A1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 11824, E-
  31, ABLD0A1P, 193520, B-31, APBLD0A1,, 認定プログラム ↓
  2, 0, 共通ファイル創成, APBLD1B1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 5552, E-31,
  ABLD1B1P, 4000, B-31, APBLD1B1,, 認定プログラム ↓
  3, 0, 共通ファイル出力制御, APBLD1B2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 25424,
  E-31, ABLD1B2P, 7912, B-31, APBLD1B2,, 認定プログラム ↓
  4, 0, マスタ情報ファイル創成, APBLD1C1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,,, 4112
  , E-31, ABLD1C1P, 140520, B-31, APBLD1C1,, 認定プログラム ↓
  5, 0, マスタ情報ファイル更新, APBLD1C2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 1176
  , E-31, ABLD1C2P, 1048, B-31, APBLD1C2,, 認定プログラム ↓
  6, 0, D B / D S ログファイル更新制御, APBLD1C3,, COBOL85, V11L20, ASM,,, 1995/8/25, V05L45,,,
  , , 40760, B-24, APBLD1C3,,, ↓
  7, 0, 共通ファイル出力チェック, APBLD1C4,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 13
  360, E-31, ABLD1C4P, 21368, B-31, APBLD1C4,, 認定プログラム ↓
  8, 0, マスタ情報ファイル照会出力, APBLD1D1, APBLD1DB, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P,
  D, E, U,,, 1384, E-31, ABLD1D1P, 1680, B-31, APBLD1D1,, 認定プログラム ↓
  9, 0, 会員情報ファイル入力, APBLD1D3,, COBOL85, V11L20, ASM,,, 1995/8/25, V05L45,,,,, 257432,
  B-24, APBLD1D3,,, ↓
  10, 0, ログファイル更新データ収集, APBLD1D4,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,
  , , 960, E-31, ABLD1D4P, 520, B-31, APBLD1D4,, 認定プログラム ↓
  11, 0, ログファイル更新データチェック, APBLD1D5,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D,
  E, U,,, 15376, E-31, ABLD1D5P, 15048, B-31, APBLD1D5,, 認定プログラム ↓
  12, 0, マスタ情報ファイル画面出力, APBLD1E1,, ASM, V02L20,,, 1989/5/29, V05L30, E, U,,, 312,
  B-24, APBLD1E1,,, 認定プログラム ↓
  13, 0, マスタ情報ファイル帳票出力, APBLD1E2,, ASM, V02L20,,, 1989/5/29, V05L30, E, U,,, 240,
  B-24, APBLD1E2,,, 認定プログラム ↓
  14, 0, 会員情報付加, APBLD1E3,, COBOL85, V11L20, ASM,,, 1995/8/25, V05L45,,,,, 212864, B-24, A
  PBLD1E3,,, APBLD1EE, ↓
  15, 0, 会員情報ファイル更新チェック, APBLD1F1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E,
  U,,, 1528, E-31, ABLD1F1P, 552, B-31, APBLD1F1,, 認定プログラム ↓
  16, 0, 会員別売上明細レコード編集, APBLD1G1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,
  , , 9568, E-31, ABLD1G1P, 18256, B-31, APBLD1G1,, 認定プログラム ↓
  17, 0, 月別売上明細編集, APBLD1G2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/30, V05L30, P, D, E, U,,, 10032, E-
  31, ABLD1G2P, 15984, B-31, APBLD1G2,, 認定プログラム ↓
  18, 0, 売上内容比較, APBLD1H1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,, 3552, E-31, A
  BLD1HIP, 3880, B-31, APBLD1H1,, 認定プログラム ↓
  19, 0, 顧客別売上状況チェック 1, APBLD1I1,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,,
  9328, E-31, ABLD1I1P, 7592, B-31, APBLD1I1,, 認定プログラム ↓
  20, 0, 顧客別売上状況チェック 2, APBLD1I2,, COBOL85, V11L11,,, 1989/5/29, V05L30, P, D, E, U,,,
  4024, E-31, ABLD1I2P, 2336, B-31, APBLD1I2,, 認定プログラム ↓
⑤,,合計,,,,,,,,,628808,, 434216 ↓

```

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.8-1 ロードモジュール一覧CSV 形式ファイルの出力形式

## [図2.8-1 の説明]

## ① CSV 形式ファイルのヘッダ情報 1

CSV 形式ファイルの種類 (ロードモジュール一覧) と CSV 形式ファイルの作成日が出力される。

## ② CSV 形式ファイルのヘッダ情報 2 (明細に対するヘッダ情報)

以下の見出しが出力される。



- 1) ロードモジュール名
- 2) C S E C T
- 3) P S E C T

③ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3（明細に対するヘッダ情報）

以下の見出しが出力される。

- |               |   |                        |
|---------------|---|------------------------|
| 1) N O .      | } | ②の“ロードモジュール名”に属するヘッダ情報 |
| 2) (null) (注) |   |                        |
| 3) 日本語名       |   |                        |
| 4) 本名         |   |                        |
| 5) 別名         |   |                        |
| 6) 言語         |   |                        |
| 7) 翻訳V/L      |   |                        |
| 8) 言語         |   |                        |
| 9) 言語         |   |                        |
| 10) 言語        |   |                        |
| 11) L M作成日    |   |                        |
| 12) V/L       |   |                        |
| 13) モジュール属性   |   |                        |
| 14) モジュール属性   |   |                        |
| 15) モジュール属性   |   |                        |
| 16) モジュール属性   |   |                        |
| 17) モジュール属性   |   |                        |
| 18) モジュール属性   |   |                        |
| 19) サイズ       | } | ②の“C S E C T”に属するヘッダ情報 |
| 20) アドレス拡張属性  |   |                        |
| 21) 主入口名      |   |                        |
| 22) サイズ       | } | ②の“P S E C T”に属するヘッダ情報 |
| 23) アドレス拡張属性  |   |                        |
| 24) 主入口名      |   |                        |
| 25) 副入口名      |   |                        |
| 26) 注釈        |   |                        |

注) ヘッダ情報は出力されない。

④ CSV 形式ファイルの明細情報

ロードモジュール一覧の情報が出力される。

出力される情報をフィールド単位に説明する。

- 1) SEQ 番号が出力される。
- 2) モジュールに対する枝番が出力される。

本名 : 0

別名又は副入口名 : 1 から連番

- 3) PARMパラメタで日本語名出力の指定がある場合に、モジュール名が日本語で出力される。
- 4) モジュールの本名が英数字で出力される。
- 5) モジュールが別名を持っている場合、その別名が英数字で出力される。
- 6) モジュールの本名から取得した言語タイプが出力される。
- 7) モジュールの本名から取得した翻訳プログラムのバージョンレベルが出力される。
- 8) モジュールが静的結合で複数の言語から構成されている場合に、その言語タイプが出力される。複数の言語から構成されていない場合には、情報は出力されない。
- 9) モジュールが静的結合で複数の言語から構成されている場合に、その言語タイプが出力される。複数の言語から構成されていない場合には、情報は出力されない。
- 10) モジュールが静的結合で複数の言語から構成されている場合に、その言語タイプが出力される。複数の言語から構成されていない場合には、情報は出力されない。
- 11) ロードモジュールの作成日が出力される。
- 12) リンケージエディタのバージョンレベルが出力される。
- 13) モジュール属性が出力される。モジュール属性を持っていない場合には、情報は出力されない。
- 14) モジュール属性が出力される。モジュール属性を持っていない場合には、情報は出力されない。
- 15) モジュール属性が出力される。モジュール属性を持っていない場合には、情報は出力されない。
- 16) モジュール属性が出力される。モジュール属性を持っていない場合には、情報は出力されない。
- 17) モジュール属性が出力される。モジュール属性を持っていない場合には、情報は出力されない。
- 18) モジュール属性が出力される。モジュール属性を持っていない場合には、情報は出力されない。
- 19) CSECT の仮想記憶域の大きさ（バイト）が出力される。
- 20) CSECT のアドレス属性が出力される。
- 21) CSECT の主入口名が出力される。
- 22) PSECT の仮想記憶域の大きさ（バイト）が出力される。
- 23) PSECT のアドレス属性が出力される。
- 24) PSECT の主入口名が出力される。
- 25) PSECT の副入口名が出力される。
- 26) モジュールが認定プログラムである場合、注釈が出力される。

※出力される情報は、ロードモジュール一覧と同じであるため、情報の詳細については、

“2.1.2.2 ロードモジュール一覧の出力形式”を参照されたい。

なお、モジュールに対する枝番で別名又は副入口名のレコードが出力される場合、別名又は副入口名の情報以外は、本名（枝番が“0”）と同じ情報が出力される。ただし、CSECT 及び PSECT の仮想記憶域の大きさには、先頭にアスタリスク“\*”が付加（例：\*1024）される。

また、枝番のレコードにおいて、別名と副入口名の数が一致しない場合、数が少ない方には8文字のアスタリスク“\*\*\*\*\*”が出力される。

⑤ CSV 形式ファイルの合計情報

仮想記憶域の大きさの（バイト）合計が出力される。

- 1) 合計（本レコードが合計情報を示す見出し）
- 2) CSECT の仮想記憶域の大きさ（バイト）の合計が出力される。
- 3) PSECT の仮想記憶域の大きさ（バイト）の合計が出力される。

※②～③のヘッダ情報は、2レコードで一つのヘッダ情報となる。

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

**** ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト ****, , , 2012/10/22 ↓
ロードモジュールライブラリ, , , ソースライブラリ ↓
010018. WK. DCHK. LOAD, , , 010018. WK. DCHK. SOC ↓
NO. , メンバ名 (日本語名), メンバ名 (A N名), 言語, 翻訳V/L, ロードモジュール作
成日, ソース最終修正日, モジュール識別子, 所有者名, 区分, メッセージ ↓
1, D B / D S 環境設定, APBLD0A1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
2, 共通ファイル創成, APBLD1B1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/30, , 010005, 3, ロードモジュ
ール作成日がソース最終修正日より古い ↓
3, 共通ファイル出力制御, APBLD1B2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
4, マスタ情報ファイル創成, APBLD1C1, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/29, , 010005, 2, ↓
5, マスタ情報ファイル更新, APBLD1C2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
6, D B / D S ログファイル更新制御, APBLD1C3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1
↓
7, 共通ファイル出力チェック, APBLD1C4, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
8, マスタ情報ファイル照会出力, APBLD1D1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
9, メッセージ振分け, APBLD1D2, , , 1989/5/29, , 010005, 4, ロードモジュールライブラリにメンバ
が存在しない ↓
10, 会員情報ファイル入力, APBLD1D3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
11, ログファイル更新データ収集, APBLD1D4, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, , , 5, ソースライブラリ
にメンバが存在しない ↓
12, ログファイル更新データチェック, APBLD1D5, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/29, , 010005
, 2, ↓
13, マスタ情報ファイル画面出力, APBLD1E1, ASM, V02L20, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
14, マスタ情報ファイル帳票出力, APBLD1E2, ASM, V02L20, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
15, 会員情報付加, APBLD1E3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
16, 会員情報ファイル更新チェック, APBLD1F1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1
↓
17, 会員別売上明細レコード編集, APBLD1G1, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/29, , 010005, 2,
↓
18, 月別売上明細編集, APBLD1G2, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/29, , 010005, 2, ↓
19, 売上内容比較, APBLD1H1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
20, 顧客別売上状況チェック 1, APBLD1I1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓
21, 顧客別売上状況チェック 2, APBLD1I2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, , 010005, 1, ↓

```

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.9-1 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力例

16.6 図2.10-1 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

①***** ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト *****,,,2012/10/22 ↓
②ロードモジュールライブラリ,,, ソースライブラリ↓
③010018.WK.DCHK.LOAD,,,010018.WK.DCHK.SOC↓
④NO.,メンバ名(日本語名),メンバ名(AN名),言語,翻訳V/L,ロードモジュール作
  成日,ソース最終修正日,モジュール識別子,所有者名,区分,メッセージ↓
⑤1,DB/D S環境設定,APBLD0A1,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  2,共通ファイル創成,APBLD1B1,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/30,,010005,3, ロードモジュ
  ール作成日がソース最終修正日より古い↓
  3,共通ファイル出力制御,APBLD1B2,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  4,マスタ情報ファイル創成,APBLD1C1,COBOL85,V11L11,1989/5/30,1989/5/29,,010005,2, ↓
  5,マスタ情報ファイル更新,APBLD1C2,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  6,DB/D Sログファイル更新制御,APBLD1C3,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1
  , ↓
  7,共通ファイル出力チェック,APBLD1C4,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  8,マスタ情報ファイル照会出力,APBLD1D1,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  9,メッセージ振分け,APBLD1D2,,,1989/5/29,,010005,4, ロードモジュールライブラリにメンバ
  が存在しない↓
  10,会員情報ファイル入力,APBLD1D3,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  11,ログファイル更新データ収集,APBLD1D4,COBOL85,V11L11,1989/5/29,,,5, ソースライブラリ
  にメンバが存在しない↓
  12,ログファイル更新データチェック,APBLD1D5,COBOL85,V11L11,1989/5/30,1989/5/29,,010005
  ,2, ↓
  13,マスタ情報ファイル画面出力,APBLD1E1,ASM,V02L20,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  14,マスタ情報ファイル帳票出力,APBLD1E2,ASM,V02L20,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  15,会員情報付加,APBLD1E3,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  16,会員情報ファイル更新チェック,APBLD1F1,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1
  , ↓
  17,会員別売上明細レコード編集,APBLD1G1,COBOL85,V11L11,1989/5/30,1989/5/29,,010005,2,
  ↓
  18,月別売上明細編集,APBLD1G2,COBOL85,V11L11,1989/5/30,1989/5/29,,010005,2, ↓
  19,売上内容比較,APBLD1H1,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  20,顧客別売上状況チェック1,APBLD1I1,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓
  21,顧客別売上状況チェック2,APBLD1I2,COBOL85,V11L11,1989/5/29,1989/5/29,,010005,1, ↓

```

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.10-1 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式

[図2.10-1の説明]

① CSV 形式ファイルのヘッダ情報1

CSV 形式ファイルの種類 (ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト) とCSV 形式ファイルの作成日が出力される。

② CSV 形式ファイルのヘッダ情報2

以下の見出しが出力される。

- 1) ロードモジュールライブラリ
- 2) ソースライブラリ

③ CSV 形式ファイルのヘッダ情報3

チェック対象のデータセット名が出力される。

- 1) ロードモジュールライブラリのデータセット名が出力される。
- 2) ソースライブラリのデータセット名が出力される。

④ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 4（明細に対するヘッダ情報）

以下の見出しが出力される．

- 1) NO.
- 2) メンバ名（日本語名）
- 3) メンバ名（AN名）
- 4) 言語
- 5) 翻訳V／L
- 6) ロードモジュール作成日
- 7) ソース最終修正日
- 8) モジュール識別子
- 9) 所有者名
- 10) 区分
- 11) メッセージ

⑤ CSV 形式ファイルの明細情報

ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストの情報が出力される．

出力される情報を，フィールド単位に説明する．

- 1) SEQ 番号が出力される．
- 2) PARMパラメタで日本語名出力の指定がある場合に，モジュール名が日本語で出力される．
- 3) モジュールが英数字で出力される．
- 4) モジュールから取得した言語タイプが出力される．
- 5) モジュールから取得した翻訳プログラムのバージョンレベルが出力される．
- 6) ロードモジュールの作成日付が出力される．
- 7) ソースプログラムの最終修正日が出力される．
- 8) ソースプログラムライブラリがGEM ライブラリの場合に，モジュール識別子が出力される．
- 9) ソースプログラムライブラリが，区分データセットならユーザID，GEM ライブラリならオーナー名が所有者名として出力される．
- 10) ロードモジュール作成日とソースプログラム最終修正日の同期チェック結果が区分として出力される．（注1）
- 11) ロードモジュール作成日とソースプログラム最終修正日の同期チェック結果のメッセージが出力される．（注1）

注1) 区分とメッセージ（意味）の関係を次に示す．

区分	メ ッ セ ー ジ （ 意 味 ）
1	ロードモジュール作成日とソース最終修正日は同一
2	ロードモジュール作成日がソース最終修正日より新しい
3	ロードモジュール作成日がソース最終修正日より古い
4	ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない
5	ソースライブラリにメンバが存在しない
6	ソース最終修正日を取得することができない

区分が1と2の場合には，メッセージは出力されない．

なお，メッセージ（意味）は，NOCSV オプション時に出力される“ロードモジュール／ソース作成日付チェック結果リスト”と同じである．

区分を集計することで，“ロードモジュール／ソース作成日付チェック結果リスト”と同じように，それぞれの数を把握することができる．

## 【旧記述】

(記述追加)

## 【新記述】

```

**** ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト ****, , , , , 2012/10/22 ↓
ロードモジュールライブラリ, , , , , ソースライブラリ ↓
010018. WK. DCHK. LOAD, , , , , 010018. WK. DCHK. SOC ↓
.. ロードモジュール, , , , , ソース ↓
NO. , メンバ名, モジュール名, 言語, 翻訳V/L, 作成日, 翻訳日時, , 最新更新日時, , 所有者名, レベル, 区分, メッセージ ↓
1, APBLDOA1, APBLDOA1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:23:02, 1989/5/29, 15:29:??, 010005, , 1, ↓
2, APBLD1B1, APBLD1B1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:25:42, 1989/5/30, 13:10:??, 010005, , 3, L M中の翻訳日時はソース最新更新日時より古い ↓
3, APBLD1B2, APBLD1B2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:28:33, 1989/5/29, 15:30:??, 010005, , 1, ↓
4, APBLD1C1, APBLD1C1, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:16:04, 1989/5/29, 15:30:??, 010005, , 1, ↓
5, APBLD1C2, APBLD1C2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:30:18, 1989/5/29, 15:31:??, 010005, , 1, ↓
6, APBLD1C3, APBLD1C3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:33:26, 1989/5/29, 15:31:??, 010005, , 1, ↓
7, APBLD1C4, APBLD1C4, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:30:23, 1989/5/29, 15:32:??, 010005, , 1, ↓
8, APBLD1D1, APBLD1D1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:41:56, 1989/5/29, 15:32:??, 010005, , 1, ↓
9, APBLD1D2, , , , , , 1989/5/29, 15:33:??, 010005, , 4, ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ↓
10, APBLD1D3, APBLD1D3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:30:49, 1989/5/29, 15:33:??, 010005, , 1, ↓
11, APBLD1D4, APBLD1D4, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:31:00, , , , 5, ソースライブラリにメンバが存在しない ↓
12, APBLD1D5, APBLD1D5, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:16:57, 1989/5/29, 15:34:??, 010005, , 1, ↓
13, APBLD1E1, APBLD1E1, ASM, V02L20, 1989/5/29, 1989/5/29, , 1989/5/29, , 010005, , 2, ↓
14, APBLD1E2, APBLD1E2, ASM, V02L20, 1989/5/29, 1989/5/29, , 1989/5/29, , 010005, , 2, ↓
15, APBLD1E3, APBLD1E3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:35:02, 1989/5/29, 15:55:??, 010005, , 1, ↓
16, APBLD1F1, APBLD1F1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:31:28, 1989/5/29, 15:37:??, 010005, , 1, ↓
17, APBLD1G1, APBLD1G1, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:17:08, 1989/5/29, 15:37:??, 010005, , 1, ↓
18, APBLD1G2, APBLD1G2, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:17:18, 1989/5/29, 15:38:??, 010005, , 1, ↓
19, APBLD1H1, APBLD1H1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:32:08, 1989/5/29, 15:38:??, 010005, , 1, ↓
20, APBLD1I1, APBLD1I1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:32:16, 1989/5/29, 15:49:??, 010005, , 1, ↓
21, APBLD1I2, APBLD1I2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:32:27, 1989/5/29, 15:49:??, 010005, , 1, ↓

```

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.11-1 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイルの出力例



【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

```

①***** ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト *****,,,,,2012/10/22 ↓
②ロードモジュールライブラリ,,,,, ソースライブラリ ↓
③010018. WK. DCHK. LOAD,,,,, 010018. WK. DCHK. SOC ↓
④,, ロードモジュール,,,,, ソース ↓
⑤NO. , メンバ名, モジュール名, 言語, 翻訳V/L, 作成日, 翻訳日時,, 最新更新日時,, 所有者名, レベル, 区分, メッセージ ↓
⑥1, APBLDOA1, APBLDOA1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:23:02, 1989/5/29, 15:29:??, 010005,, 1, ↓
2, APBLD1B1, APBLD1B1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:25:42, 1989/5/30, 13:10:??, 010005,, 3, L M中の翻訳日時はソース最新更新日時より古い ↓
3, APBLD1B2, APBLD1B2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:28:33, 1989/5/29, 15:30:??, 010005,, 1, ↓
4, APBLD1C1, APBLD1C1, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:16:04, 1989/5/29, 15:30:??, 010005,, 1, ↓
5, APBLD1C2, APBLD1C2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:30:18, 1989/5/29, 15:31:??, 010005,, 1, ↓
6, APBLD1C3, APBLD1C3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:33:26, 1989/5/29, 15:31:??, 010005,, 1, ↓
7, APBLD1C4, APBLD1C4, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:30:23, 1989/5/29, 15:32:??, 010005,, 1, ↓
8, APBLD1D1, APBLD1D1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:41:56, 1989/5/29, 15:32:??, 010005,, 1, ↓
9, APBLD1D2,,,,,, 1989/5/29, 15:33:??, 010005,, 4, ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない ↓
10, APBLD1D3, APBLD1D3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:30:49, 1989/5/29, 15:33:??, 010005,, 1, ↓
11, APBLD1D4, APBLD1D4, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:31:00,,,,, 5, ソースライブラリにメンバが存在しない ↓
12, APBLD1D5, APBLD1D5, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:16:57, 1989/5/29, 15:34:??, 010005,, 1, ↓
13, APBLD1E1, APBLD1E1, ASM, V02L20, 1989/5/29, 1989/5/29,, 1989/5/29,, 010005,, 2, ↓
14, APBLD1E2, APBLD1E2, ASM, V02L20, 1989/5/29, 1989/5/29,, 1989/5/29,, 010005,, 2, ↓
15, APBLD1E3, APBLD1E3, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:35:02, 1989/5/29, 15:55:??, 010005,, 1, ↓
16, APBLD1F1, APBLD1F1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:31:28, 1989/5/29, 15:37:??, 010005,, 1, ↓
17, APBLD1G1, APBLD1G1, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:17:08, 1989/5/29, 15:37:??, 010005,, 1, ↓
18, APBLD1G2, APBLD1G2, COBOL85, V11L11, 1989/5/30, 1989/5/30, 13:17:18, 1989/5/29, 15:38:??, 010005,, 1, ↓
19, APBLD1H1, APBLD1H1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:32:08, 1989/5/29, 15:38:??, 010005,, 1, ↓
20, APBLD1I1, APBLD1I1, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:32:16, 1989/5/29, 15:49:??, 010005,, 1, ↓
21, APBLD1I2, APBLD1I2, COBOL85, V11L11, 1989/5/29, 1989/5/29, 16:32:27, 1989/5/29, 15:49:??, 010005,, 1, ↓

```

注) “↓” はレコード (行) の終わり (改行) を示す。

図2.12-1 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイルの出力形式

[図2.12-1の説明]

① CSV 形式ファイルのヘッダ情報1

CSV 形式ファイルの種類 (ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト) とCSV 形式ファイルの作成日が出力される。

② CSV 形式ファイルのヘッダ情報2

以下の見出しが出力される。

- 1) ロードモジュールライブラリ
- 2) ソースライブラリ

③ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 3

チェック対象のデータセット名が出力される。

- 1) ロードモジュールライブラリのデータセット名が出力される。
- 2) ソースライブラリのデータセット名が出力される。

④ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 4（明細に対するヘッダ情報）

以下の見出しが出力される。

- 1) ロードモジュール
- 2) ソース

⑤ CSV 形式ファイルのヘッダ情報 5（明細に対するヘッダ情報）

以下の見出しが出力される。

- |                  |   |
|------------------|---|
| 1) NO.           |   |
| 2) メンバ名          | } |
| 3) モジュール名        |   |
| 4) 言語            |   |
| 5) 翻訳 V/L        |   |
| 6) 作成日           |   |
| 7) 翻訳日時          |   |
| 8) (null) (注 1)  |   |
| 9) 最終更新日時        | } |
| 10) (null) (注 1) |   |
| 11) 所有者名         |   |
| 12) レベル          |   |
| 13) 区分           |   |
| 14) メッセージ        |   |
- ④の“ロードモジュール”に属するヘッダ情報
- ④の“ソース”に属するヘッダ情報

注 1) ヘッダ情報は出力されない。

⑥ CSV 形式ファイルの明細情報

ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストの情報が出力される。

出力される情報を，フィールド単位に説明する。

- 1) SEQ 番号が出力される。
  - 2) ロードモジュール又はソースプログラムのメンバ名が英数字で出力される。
  - 3) ロードモジュールのモジュール名が英数字で出力される。
  - 4) モジュールから取得した言語タイプが出力される。
  - 5) モジュールから取得した翻訳プログラムのバージョンレベルが出力される。
  - 6) ロードモジュールの作成日付が出力される。
  - 7) ロードモジュールの翻訳日付が出力される。
  - 8) ロードモジュールの翻訳時刻が出力される。
- ソースプログラムがCOBOL85 の場合に出力される。

- 9) ソースプログラムの最新更新日付が出力される。  
 ソースプログラムの日付が取得できない場合には ' ?? . ?? . ?? ' と出力される。
- 10) ソースプログラムの最新更新時刻が出力される。  
 ソースプログラムがCOBOL85 の場合でソースプログラムライブラリがGEM ライブラリの場合、時・分・秒まで出力される。  
 ソースプログラムがCOBOL85 の場合でソースプログラムライブラリが区分データセット (PFD ) の場合、時・分まで出力され、秒は ' ?? ' と出力される。  
 上記以外の場合は出力されない。
- 11) ソースプログラムライブラリが、区分データセットならユーザID, GEM ライブラリならオーナー名が所有者名として出力される。
- 12) ソースプログラムライブラリがGEM ライブラリの場合、レベルが出力される。
- 13) ロードモジュール翻訳日時とソースプログラム最終更新日時の同期チェック結果が区分として出力される。(注2)
- 14) ロードモジュール翻訳日時とソースプログラム最終更新日時の同期チェック結果のメッセージが出力される。(注2)

注2) 区分とメッセージ(意味)の関係を次に示す。

区分	メ ッ セ ー ジ ( 意 味 )
1	L M中の翻訳日時はソース最新更新日時より新しい
2	L M中の翻訳日時とソース最新更新日時が同一
3	L M中の翻訳日時はソース最新更新日時より古い
4	ロードモジュールライブラリにメンバが存在しない
5	ソースライブラリにメンバが存在しない
6	ロードモジュール翻訳日時を取得することができない
7	ソース最新更新日時を取得することができない

区分が1と2の場合には、メッセージは出力されない。

なお、メッセージ(意味)は、NOCSV オプション時に出力される“ロードモジュール／ソース作成日時チェック結果リスト”と同じである。

区分を集計することで、“ロードモジュール／ソース作成日時チェック結果リスト”と同じように、それぞれの数を把握することができる。

※④～⑤のヘッダ情報は、2レコードで一つのヘッダ情報となる。

#### 16.9 2.2.2.2 ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード形式

【日記述】

ロードモジュール一覧保存ファイルは、レコード形式がFB/ F ，レコード長83バイトの順編成ファイルである。図2.23にフォーマットを示し説明する。

1								9								17								25								31							
メンバ名								別名								言語								いろ ろいろ 作ド 成モ 日ジ ユ								いろ ろいろ Vド ／モ Lジ ユ							
①								②								③								④								⑤							
X(8)								X(8)								X(8)								9(6)								X(4)							

35								43								51								57								62								67								75								83																															
... サイズ								... P サS イE ズC T								属性 ⑧								... ア 拡ド 張レ 属ス 性								... P 拡アS 張ドE 属レC 性スT								... 主 入 口 名								... 副 入 口 名								認定 プログラム																															
⑥								⑦								属性 1								属性 2								... 6								属性 6								⑨								⑩								⑪								⑫								⑬							
9(8)								9(8)								X(6)								X(5)								X(5)								X(8)								X(8)								X(1)																															

図2.23 ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード形式

[図2.23の説明]

- ① ロードモジュールの解析対象メンバ名を格納する項目である。
- ② メンバが別名を持っている場合、その別名を格納する項目である（注）。
- ③ 翻訳プログラム名から言語を判断し、その言語タイプが格納される（注）。
- ④ 作成日付が格納される。
- ⑤ バージョンレベルが格納される。
- ⑥ 仮想記憶域の大きさが格納される。
- ⑦ 属性にPSECT を持つ場合は、PSECT の仮想記憶域の大きさが格納される。
- ⑧ ロードモジュールの属性を示す文字が格納される。

(中略)

- ⑨ アドレス拡張がない場合は ' NOAE ' が格納され、ある場合はそのアドレス拡張属性が格納される。
- ⑩ アドレス拡張がある場合で、属性にPSECT を持つ場合は、PSECT のアドレス拡張属性が格納される。
- ⑪ 主入口名を格納する項目である（注）。
- ⑫ メンバが副入口点を持っている場合、その副入口名を格納する項目である（注）。
- ⑬ メンバが認定プログラムの時、 ' 1 ' が格納される。

注）別名，言語，主入口名，又は副入口名がn件ある場合は，1メンバに対してレコードがn件作成される。

【新記述】

ロードモジュール一覧保存ファイルは、レコード形式がFB/ F ，レコード長87バイトの順編成ファイルである．図2. 23にフォーマットを示し説明する．

1	9	17	25	29	35
メ ン バ 名  ①	別  名  ②	言  語  ③	翻 訳 V / L  ④	┆ロ ル┆ 作ド 成モ 日ジ ユ  ⑤	┆ロ ル┆ Vド ／モ Lジ ユ  ⑥
X(8)	X(8)	X(8)	X(4)	9(6)	X(4)

39	47	55	61	66	71	79	87
... サ イ ズ  ⑦	... P サS イE ズC T  ⑧	属 性 ⑨ 属 属 ... 属 性 性 性 性 1 2 6	... ア 抃ド 張レ 属ス 性  ⑩	... P 抃アS 張ドE 属レC 性スT  ⑪	... 主 入 口 名  ⑫	... 副 入 口 名  ⑬	認 定 プ ロ グ ラ ム  ⑭
9(8)	9(8)	X(6)	X(5)	X(5)	X(8)	X(8)	X(1)

図2. 23 ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード形式

[図2. 23の説明]

- ① ロードモジュールの解析対象メンバ名を格納する項目である．
- ② メンバが別名を持っている場合，その別名を格納する項目である（注1）．
- ③ 翻訳プログラム名から言語を判断し，その言語タイプが格納される（注1）．
- ④ 翻訳プログラムのバージョンレベルが格納される（注2）．
- ⑤ 作成日付が格納される．
- ⑥ リンケージエディタのバージョンレベルが格納される．
- ⑦ 仮想記憶域の大きさが格納される．
- ⑧ 属性にPSECT を持つ場合は，PSECT の仮想記憶域の大きさが格納される．
- ⑨ ロードモジュールの属性を示す文字が格納される．

（中略）

- ⑩ アドレス拡張がない場合は ' NOAE ' が格納され、ある場合はそのアドレス拡張属性が格納される。
- ⑪ アドレス拡張がある場合で、属性にPSECT を持つ場合は、PSECT のアドレス拡張属性が格納される。
- ⑫ 主入口名を格納する項目である（注1）。
- ⑬ メンバが副入口点を持っている場合、その副入口名を格納する項目である（注1）。
- ⑭ メンバが認定プログラムの時、 ' 1 ' が格納される。

注1）別名，言語，主入口名，又は副入口名がn件ある場合は，1メンバに対してレコードがn件作成される。

注2）V2IL10以前では，保存ファイルに“翻訳V／L”が存在しない．保存ファイルのレコード長は83となる。

【旧記述】

DD名（注1）	用 途	編成（注2）	レコード 形 式	レコード長 （バイト）	ブロック長 （バイト）
IMAGELIB	- イメージライブラリ - ONLYオプション指定時 以外必須	PO	U	0	26793 (6144)
~~~~~					
JSMHHCIN	- 入力保存ファイル - INDIRECTオプション指 定時必須	PS	F, FB	36（ロード モジュール 構造図保存 ファイル） 83（ロード モジュール 一覧保存フ ァイル）	レコード長 の倍数
JSMHHCOT	- 保存ファイル作成用デ ータセット DCT 又はONLYオプショ ン指定時必須	PS	F, FB	36（ロード モジュール 構造図保存 ファイル） 83（ロード モジュール 一覧保存フ ァイル）	レコード長 の倍数
JSMHHLST	- ドキュメント出力用デ ータセット - ONLYオプション指定時 以外必須	PS	FA, FBA	256 362（ロード モジュール 構造図）	レコード長 の倍数
~~~~~					
JSMHHO10	- 作業用データセット - SCHKオプション指定時 必須	PS	F, FB	50	レコード長 の倍数
~~~~~					

ISAM：索引順データセット。OS IV/X8 FSPのみ可。ハードウェアの1トラックの大きさを  
を超えるレコード長を指定することはできない。



【新記述】

DD名（注1）	用 途	編成（注2）	レコード 形 式	レコード長 （バイト）	ブロック長 （バイト）
IMAGELIB	- イメージライブラリ - ONLYオプション指定時 以外必須	PO	U	0	6144 (注3)
~~~~~					
JSMHHCIN	- 入力保存ファイル - INDIRECTオプション指 定時必須	PS	F, FB	36（ロード モジュール 構造図保存 ファイル） 87（ロード モジュール 一覧保存フ ァイル） （注4）	レコード長 の倍数
JSMHHCOT	- 保存ファイル作成用デ ータセット - DCT 又はONLYオプショ ン指定時必須	PS	F, FB	36（ロード モジュール 構造図保存 ファイル） 87（ロード モジュール 一覧保存フ ァイル） （注4）	レコード長 の倍数
JSMHHLST	- ドキュメント出力用デ ータセット - ONLYまたはCSV オプシ ョン指定時以外必須	PS	FA, FBA	256 362（ロード モジュール 構造図）	レコード長 の倍数
JSMHHCsv	- CSV 形式ファイル出力 用データセット - ONLYまたはNOCSV オプ ション指定時以外必須	PS	V, VB	3999 299 216 171 （注5）	レコード長 の倍数 + 4 以上
~~~~~					
JSMHH010	- 作業用データセット - SCHKオプション指定時 必須	PS	F, FB	51 （注6）	レコード長 の倍数
~~~~~					

ISAM：索引順データセット。OS IV/XSP のみ可。ハードウェアの1トラックの大きさを  
超えるレコード長を指定することはできない。

注3) IMAGELIBのブロック長

V21L10以前は、OS IV/MSP とOS IV/XSP でブロック長が異なる。

OS IV/MSP : 26793

OS IV/XSP : 6144

注4) JSMHHCIN, JSMHHCOTのレコード長

V21L10以前は、ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード長は83バイトである。

注5) CSV 形式ファイルのレコード長

3999 (ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル)

299 (ロードモジュール一覧CSV 形式ファイル)

216 (ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル)

171 (ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイル)

注6) JSMHH010のレコード長

V21L10以前は、作業用データセットのレコード長は50バイトである。

### 1 6 . 1 1 3.2.1 ロードモジュール構造図を出力する場合

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

図3.16-1にロードモジュール構造図出力機能でCSV 形式ファイルを出力する場合のOS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、図3.16-2にOS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//STRCT01 JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USCAT,DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.IMAGELIB,DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01
//STRCT EXEC PGM=JSMH0000,REGION=2048K,
// PARM='STRCT(DCT,DUP),HANYO,CSV'
//SYSIN DD *
@MOPT M='TSTPRO01'
@POPT P=JMP,JZL
/*
//LOADLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.LOAD,DISP=SHR
//JIMLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.NDICT,DISP=SHR
//JSMHHCOT DD DSN=SAMPLE.STRCT.HOZON,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),VOL=SER=LOAD01
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCSV DD DSN=SAMPLE.STRCT.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),VOL=SER=LOAD01
//
```

図3.16-1 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル出力のジョブ制御文例 (OS IV/MSP)

```

¥ JOB  STRCT01,LIST=(N,JD),PSW=####
¥ EX   JSMH0000,RSIZE=2048
¥ PARA STRCT(DCT,,DUP),HANYO,CSV
¥ FD   STEPCAT=DA,FILE=USCAT
¥ FD   PRGLIB=DA,FILE=SAMPLE.DFLOAD.LOAD
¥ FD           CF=DA,FILE=C.ALIB
¥ FD           CF=DA,FILE=SYS.ADJUST.LINKLIB
¥ FD   UIN=*
        @MOPT   M='TSTPRO01'
        @POPT   P=JMP,JZL
¥/
¥ FD   LOADLIB=DA,FILE=SAMPLE.TEST.LOAD
¥ FD   JIMLIB=DA,FILE=SAMPLE.TEST.NDICT
¥ FD   SYSPRINT=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=N
¥ FD   JSMHHCOT=DA,FILE=SAMPLE.STRCT.HOZON,
        DISP=CAT,VOL=LOAD01,TRK=(10,10,RLSE)
¥ FD   JSMHHCsv=DA,FILE=SAMPLE.STRCT.CSV,
        DISP=CAT,VOL=LOAD01,TRK=(10,10,RLSE)
¥ JEND

```

図3.16-2 ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル出力のジョブ制御文例 (OS IV/XSP)

## 1 6 . 1 2 3.2.2 ロードモジュール一覧を出力する場合

### 【旧記述】

(記述追加)

### 【新記述】

図3.19-1にロードモジュール一覧出力機能でCSV形式ファイルを出力する場合のOS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、図3.19-2にOS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//LIST001 JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USCAT,DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.IMAGELIB,DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01
//LIST EXEC PGM=JSMH0000,REGION=2048K,
// PARM='LIST(DCT, SORT=DATE), HANYO, CSV'
//SYSIN DD *
@MOPT M=ALL
/*
//LOADLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.LOAD,DISP=SHR
//JIMLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.NDICT,DISP=SHR
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//JSMHHCOT DD DSN=SAMPLE.LIST.HOZON,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHHC SV DD DSN=SAMPLE.LIST.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//
```

図3.19-1 ロードモジュール一覧CSV形式ファイル出力のジョブ制御文例 (OS IV/MSP)

```

¥ JOB LIST001,LIST=(N,JD),PSW=####
¥ EX JSMH0000,RSIZE=2048
¥ PARA LIST(DCT, SORT=DATE), HANYO, CSV
¥ FD STEPCAT=DA, FILE=USCAT
¥ FD PRGLIB=DA, FILE=SAMPLE. DFLOAD. LOAD
¥ FD CF=DA, FILE=C. ALIB
¥ FD CF=DA, FILE=SYS. ADJUST. LINKLIB
¥ FD UIN=*
    @MOPT M=ALL
¥/
¥ FD LOADLIB=DA, FILE=SAMPLE. TEST. LOAD
¥ FD JIMLIB=DA, FILE=SAMPLE. TEST. NDICT
¥ FD SORTWK01=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10)
¥ FD SORTWK02=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10)
¥ FD SORTWK03=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10)
¥ FD SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=N
¥ FD JSMHHCOT=DA, FILE=SAMPLE. LIST. HOZON,
    DISP=CAT, VOL=LOAD01, TRK=(10, 1, RLSE)
¥ FD LIST=DUMMY
¥ FD JSMHHCsv=DA, FILE=SAMPLE. LIST. CSV,
    DISP=CAT, VOL=LOAD01, TRK=(10, 1, RLSE)
¥ JEND

```

図3. 19-2 ロードモジュール一覧CSV 形式ファイル出力のジョブ制御文例 (OS IV/XSP)

## 【旧記述】

(記述追加)

## 【新記述】

図3.22-1にロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能でCSV 形式ファイルを出力する場合のOS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、図3.22-2にOS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//DCHK001 JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USCAT,DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.IMAGELIB,DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01
//DCHK EXEC PGM=JSMH0000,REGION=2048K,
// PARM='DCHK(SORT=N),HANYO,CSV'
//SYSIN DD *
@MOPT M=ALL
/*
//LOADLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.LOAD,DISP=SHR
//SOCLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.SOC,DISP=SHR
//JIMLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.NDICT,DISP=SHR
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCSV DD DSN=SAMPLE.DCHK.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//
```

図3.22-1 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル出力の  
ジョブ制御文例 (OS IV/MSP)

```

¥ JOB DCHK001, LIST=(N, JD), PSW=####
¥ EX JSMH0000, RSIZE=2048
¥ PARA DCHK (SORT=N), HANYO, CSV
¥ FD STEPCAT=DA, FILE=USCAT
¥ FD PRGLIB=DA, FILE=SAMPLE. DFLOAD. LOAD
¥ FD CF=DA, FILE=C. ALIB
¥ FD CF=DA, FILE=SYS. ADJUST. LINKLIB
¥ FD UIN=*
    @MOPT M=ALL
¥/
¥ FD LOADLIB=DA, FILE=SAMPLE. TEST. LOAD
¥ FD SOCLIB=DA, FILE=SAMPLE. TEST. SOC
¥ FD JIMLIB=DA, FILE=SAMPLE. TEST. NDICT
¥ FD SORTWK01=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10)
¥ FD SORTWK02=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10)
¥ FD SORTWK03=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10)
¥ FD SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=N
¥ FD LIST=DUMMY
¥ FD JSMHCSV=DA, FILE=SAMPLE. DCHK. CSV,
    DISP=CAT, VOL=LOAD01, TRK=(10, 1, RLSE)
¥ JEND

```

図3.22-2 ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル出力の  
ジョブ制御文例 (OS IV/XSP)



**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

図3.25-1にロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能でCSV形式ファイルを出力する場合のOS IV/MSPのジョブ制御文の例を示し、図3.25-2にOS IV/XSPのジョブ制御文の例を示す。

```
//SCHK001 JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USCAT,DISP=SHR
//IMAGELIB DD DSN=SAMPLE.DFLOAD.IMAGELIB,DISP=SHR,
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01
//SCHK EXEC PGM=JSMH0000,REGION=2048K,
// PARM='SCHK(SORT=AN),CSV'
//SYSIN DD *
@MOPT M=ALL
/*
//LOADLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.LOAD,DISP=SHR
//SOCLIB DD DSN=SAMPLE.TEST.SOC,DISP=SHR
//JSMH010 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHCSV DD DSN=SAMPLE.SCHK.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=LOAD01,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//
```

図3.25-1 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV形式ファイル出力の  
ジョブ制御文例 (OS IV/MSP)

```

¥ JOB  SCHK001,LIST=(N,JD),PSW=####
¥ EX   JSMH0000,RSIZE=2048
¥ PARA SCHK(SORT=AN),CSV
¥ FD   STEPCAT=DA,FILE=USCAT
¥ FD   PRGLIB=DA,FILE=SAMPLE.DFLOAD.LOAD
¥ FD           CF=DA,FILE=C.ALIB
¥ FD           CF=DA,FILE=SYS.ADJUST.LINKLIB
¥ FD   UIN=*
      @MOPT   M=ALL
¥/
¥ FD   LOADLIB=DA,FILE=SAMPLE.TEST.LOAD
¥ FD   SOCLIB=DA,FILE=SAMPLE.TEST.SOC
¥ FD   JSMHH010=DA,TRK=(10,10),VOL=WORK
¥ FD   SORTWK01=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10)
¥ FD   SORTWK02=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10)
¥ FD   SORTWK03=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10)
¥ FD   SYSPRINT=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=N
¥ FD   LIST=DUMMY
¥ FD   JSMHHCSV=DA,FILE=SAMPLE.SCHK.CSV,
      DISP=CAT,VOL=LOAD01,TRK=(10,1,RLSE)
¥ JEND

```

図3.25-2 ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイル出力の  
ジョブ制御文例 (OS IV/XSP)

## 【旧記述】

ファイル 名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
ロードモジュール 構造図保存フ ァイル	JSMHHCOT	PS	FB/F	36	レコード長 の倍数	$\left[ \frac{\text{PARMパラメタ及びSYSIN制御文で指定した条件に該当する1メンバ当りの呼出しモジュールの総数}}{\left[ \frac{47476(\text{注})}{\text{ブロック長}+512} \right]} * n \right]$
ロードモジュール 一覧保存フ ァイル	JSMHHCOT	PS	FB/F	83	レコード長 の倍数	$\left[ \frac{\text{PARMパラメタ及びSYSIN制御文で指定した条件に該当する検索対象の総数}}{\left[ \frac{47476(\text{注})}{\text{ブロック長}+512} \right]} * n \right]$

注) F6425 の場合

## 【新記述】

ファイル 名称	DD名	データセット 編成	レコード 形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数
ロードモジュール 構造図保存フ ァイル	JSMHHCOT	PS	FB/F	36	レコード長 の倍数	$\left[ \frac{\text{PARMパラメタ及びSYSIN制御文で指定した条件に該当する1メンバ当りの呼出しモジュールの総数}}{\left[ \frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right]} * n \right]$ (注1)

(続く)

(続き)

ロードモジュール一覧保存ファイル	JSMHHCOT	PS	FB/F	87 (注 2)	レコード長の倍数	<div> <div>PARMパラメタ及びSYSIN</div> <div>制御文で指定した条件に該当する検索対象の総数</div> <div> <math display="block">\left\lceil \frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right\rceil * n</math> </div> <div>(注 1)</div> </div>
ロードモジュール構造図CSV 形式ファイル	JSMHHCSV	PS	VB/V	3999	レコード長の倍数 + 4 以上	<div> <div>PARMパラメタ及びSYSIN</div> <div>制御文で指定した条件に該当する 1 メンバ当りの呼出しモジュールの総数</div> <div> <math display="block">\left\lceil \frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right\rceil * n</math> </div> <div>(注 1) (注 3)</div> </div>
ロードモジュール一覧CSV 形式ファイル	JSMHHCSV	PS	VB/V	299	レコード長の倍数 + 4 以上	<div> <div>PARMパラメタ及びSYSIN</div> <div>制御文で指定した条件に該当する検索対象の総数</div> <div> <math display="block">\left\lceil \frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right\rceil * n</math> </div> <div>(注 1)</div> </div>
ロードモジュール／ソース作成日付チェックリストCSV 形式ファイル	JSMHHCSV	PS	VB/V	216	レコード長の倍数 + 4 以上	<div> <div>PARMパラメタ及びSYSIN</div> <div>制御文で指定した条件に該当する検索対象の総数</div> <div> <math display="block">\left\lceil \frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right\rceil * n</math> </div> <div>(注 1)</div> </div>
ロードモジュール／ソース作成日時チェックリストCSV 形式ファイル	JSMHHCSV	PS	VB/V	171	レコード長の倍数 + 4 以上	<div> <div>PARMパラメタ及びSYSIN</div> <div>制御文で指定した条件に該当する検索対象の総数</div> <div> <math display="block">\left\lceil \frac{47476}{\text{ブロック長}+512} \right\rceil * n</math> </div> <div>(注 1)</div> </div>

注1) nはブロック化係数を示す。上記見積りはF6425 の場合である。

注2) ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード長

V21L10以前は、ロードモジュール一覧保存ファイルのレコード長は83バイトである。

注3) レコード長の3999バイトは、26階層分の情報が出力された場合の最大レコード長である。

出力対象となるモジュールの平均階層またはLEVEL オプションで指定した階層から容量見積りで使用するレコード長（ブロック長）を変更されたい。1階層分の情報は、148 バイトである。LEVEL オプションに8を指定した場合のレコード長は以下になる。

$$148 * 9 \text{ (8階層に起点を加えて9となる)} - 1 \text{ (最後のコンマは出力されない)} + 4 \text{ (RDW:Record Descriptor Word)} = 1335 \text{ バイト}$$

【旧記述】

JSMHC001-S

DD名 ' dd ' がジョブ制御文中に指定されていません。

[メッセージの意味]

指定されるべきDD名 ' dd ' がジョブ制御文中に指定されていない。

【新記述】

JSMHC001-S

DD名 ' dd ' がジョブ制御文中に指定されていません。

[メッセージの意味]

指定されるべきDD名 ' dd ' がジョブ制御文中に指定されていない。又は、DUMMY 指定がなされている。

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

JSMHC040-S

MEMBER全件指定とSUB オプションは同時に指定することはできません。

[メッセージの意味]

SYSIN 制御文のMEMBER全件指定と実行時オプションに指定されたSUB オプションは、排他関係にあるため同時に指定できない。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

SYSIN 制御文を正しく指定して再度実行する。

JSMHC041-U

リージョン不足のため作業領域が確保できません。

[メッセージの意味]

リージョン不足のため作業領域が確保できなかった。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

リージョンを増やして再度実行する。

JSMHS009-I

メンバ名 ' mem1 ' は他のモジュールからCALLされています。

[メッセージの意味]

メンバ名 ' mem1 ' は、他のモジュールからCALLされている。

[パラメタの意味]

mem1 : 他のモジュールからCALLされているメンバ名。

[システムの処理]

処理を続行する。

## 【旧記述】

“B.2 ロードモジュール構造図出力及びロードモジュール構造図保存ファイル作成”の説明を、全て新記述に置き換える。

## 【新記述】

## B.2 ロードモジュール構造図出力及びロードモジュール構造図保存ファイル作成

ロードモジュール構造図出力及びロードモジュール構造図保存ファイル作成に必要なメモリの算出方法を説明する。

## B.2.1 ロードモジュール構造図のみ出力する場合

次の領域のサイズを全てリージョンサイズに加算する。

## 処理対象メンバ数

SYSIN 制御文で指定されたメンバにおいて、処理対象となるメンバ数が 100を超えるごとに 1.2 Kバイトの領域が必要となる。

## ロードモジュールライブラリのメンバ数

メンバ数が 100を超えるごとに、2.2Kバイトの領域が必要となる。ただし、ロードモジュール構造図保存ファイルを入力する場合は不要である。

## 処理対象メンバが呼び出しているメンバ数

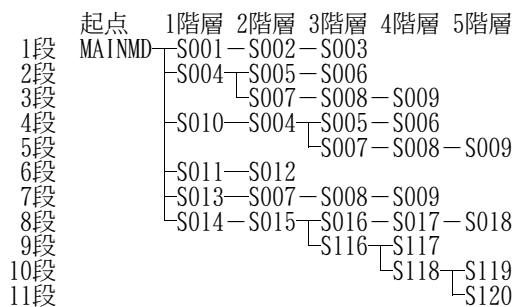
- ー 各処理対象メンバが呼び出しているメンバ数の合計が 100を超えるごとに 3.6Kバイトの領域が必要となる。
- ー 処理対象メンバが呼び出しているメンバ数が 100を超えるごとに 1.3Kバイトの領域が必要となる。なお、処理対象メンバの中で、最大の呼び出しメンバ数で計算すること。

## ロードモジュール構造図の段数

ロードモジュール構造図を出力する場合、段数が 100を超えるごとに 6.4Kバイト（CSV 形式ファイルの場合は50を超えるごとに10.4K）が必要となる。なお、処理対象メンバの中で、最大のロードモジュール構造図の段数で計算すること。

以下に示すロードモジュール構造図は11段と計算する。

階層はメモリ見積りに影響しない。



※ロードモジュール構造図に出力する情報で段数を計算する必要がある。例えば、出力抑制指定制御文を指定しない場合は、COBOL ライブラリサブルーチンが構造図に出力される場合がある。

#### B. 2. 2 ロードモジュール構造図保存ファイルのみ出力する場合

次のうち、領域のサイズが大きい方をリージョンサイズに加算する。

ロードモジュールライブラリのメンバ数

メンバ数が 100を超えるごとに、2.2Kバイトの領域が必要となる。

処理対象メンバが呼び出しているメンバ数

“B. 2. 1 ロードモジュール構造図のみ出力する場合”を参照のこと。

#### B. 2. 3 ロードモジュール構造図及びロードモジュール構造図保存ファイルの両方を出力する場合

次の領域のサイズをリージョンサイズに加算する。なお、ロードモジュールライブラリのメンバ数と処理対象メンバが呼び出しているメンバ数は、領域のサイズが大きい方を加算の対象とする。

ロードモジュールライブラリのメンバ数

“B. 2. 2 ロードモジュール構造図保存ファイルのみ出力する場合”を参照のこと。

処理対象メンバが呼び出しているメンバ数

“B. 2. 1 ロードモジュール構造図のみ出力する場合”を参照のこと。

ロードモジュール構造図の段数

“B. 2. 1 ロードモジュール構造図のみ出力する場合”を参照のこと。



1 6 . 1 8 付録C 日本語名標辞書作成支援プログラム

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

## 付録C 日本語名標辞書作成支援プログラム

DF-LOADCHARTでは、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語名標辞書を使用して、利用者語（メンバ名）を日本語に変換して出力する。本プログラムは、この日本語名標辞書の作成を支援することを目的としている。

なお、利用者語（メンバ名）は、ロードモジュール名（本名、別名または副入口名）を意味する。

### C.1 機能説明

日本語名標辞書作成支援プログラムの機能について述べる。

日本語名標辞書作成支援プログラムは、以下に示す二つの機能から構成される。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2

#### C.1.1 日本語名標辞書作成支援プログラム 1

ロードモジュール一覧出力機能にて出力されるCSV 形式ファイルを入力として、利用者語を単語に分割しCSV 形式ファイルとして出力する。単語が出力されたCSV 形式ファイルを、ロードモジュール単語ファイルと呼ぶ。

単語とは日本語変換の単位であり、単語の単位で対応する日本語に変換される。

#### C.1.2 日本語名標辞書作成支援プログラム 2

単語に対応する日本語が入力されたロードモジュール単語ファイルを入力として、日本語名標辞書を作成する。

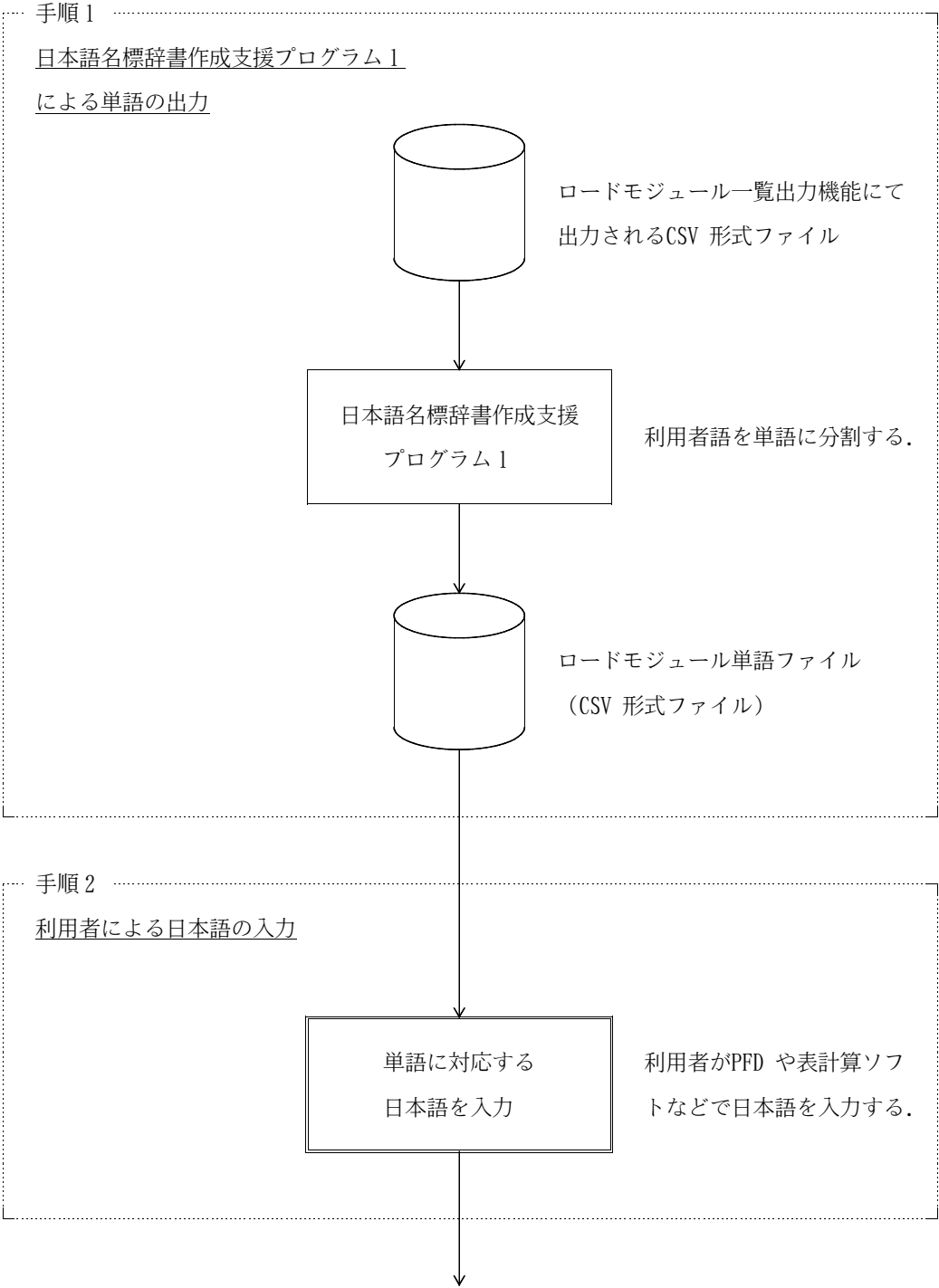
### C.2 日本語名標辞書の作成手順

日本語名標辞書の作成手順について述べる。

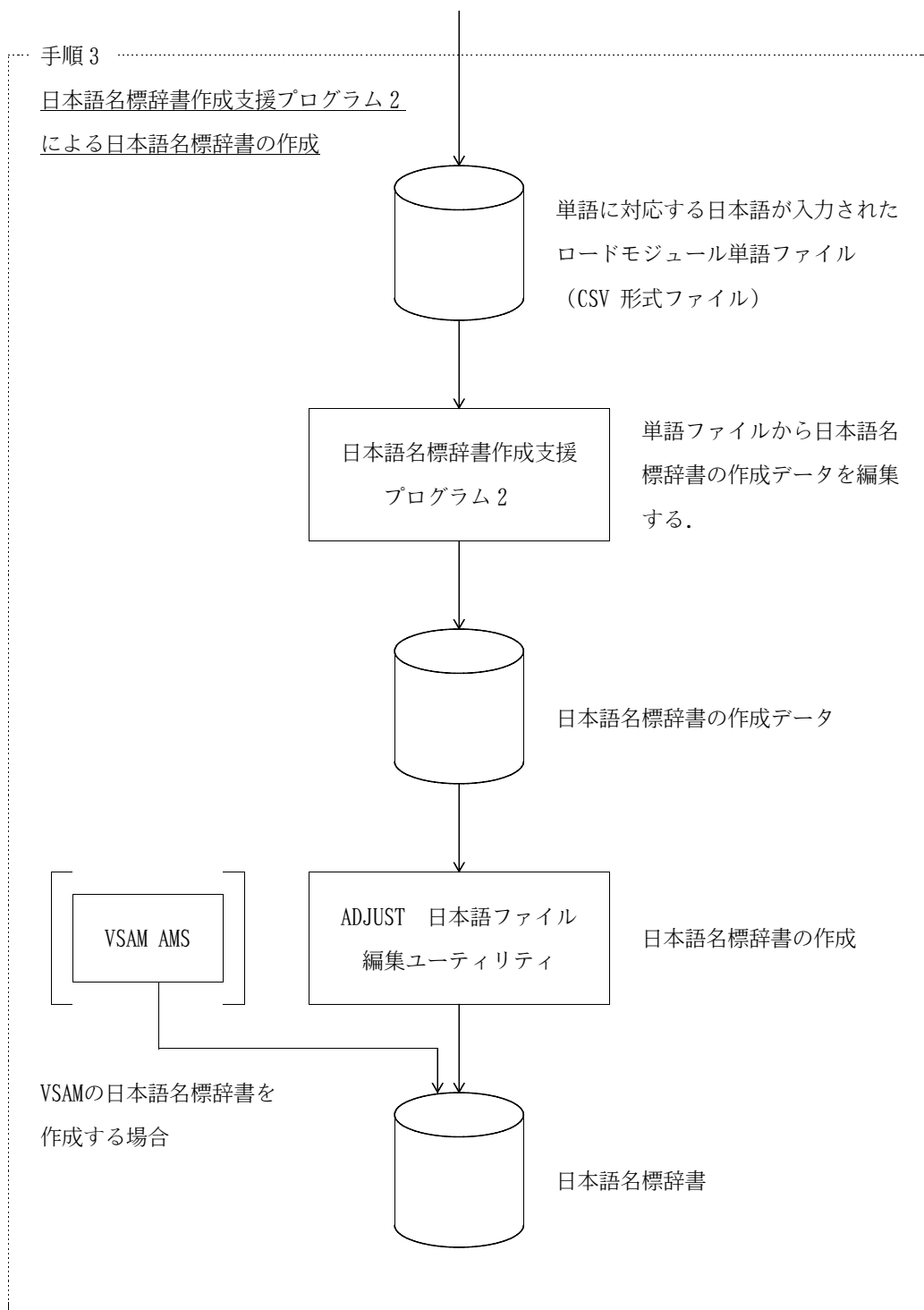
日本語名標辞書作成支援プログラムを使用した日本語名標辞書の作成は、以下に示す三つの手順からなる。

- 1) 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 による単語の出力
- 2) 利用者による日本語の入力
- 3) 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 による日本語名標辞書の作成

付図C.1 に日本語名標辞書の作成手順を示す。



付図C.1 日本語名標辞書の作成手順（続く）



付図C.1 日本語名標辞書の作成手順（続き）

### C.3 ロードモジュール単語ファイル

ロードモジュール単語ファイルは、レコード形式がVB/V、レコード長が90バイト（RDW 含む）の順編成ファイル（CSV 形式ファイル）である。図C.2 にフォーマットを示し説明する。

1	4	5	13	21
資 産 種 別 ①	コ ン マ ②	利 用 者 語 ③	コ ン マ ②	単 語 ④
X(3)	X(1)	X(8)	X(1)	X(8)

22	23	24	25	86
コ ン マ ②	単 語 長 ⑤	コ ン マ ②	日 本 語 ⑥	
X(1)	X(1)	X(1)	X(62)	

付図C.2 ロードモジュール単語ファイルのレコード形式

[付図C.2 の説明]

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて出力される情報

- ① 以下に示す利用者語の資産種別が格納される。
  - ー LD0 : ロードモジュールの本名
  - ー LD1 : ロードモジュールの別名
  - ー LD2 : ロードモジュールの副入口名
- ② CSV 形式ファイルの区切り文字であるコンマ “,” が格納される。
- ③ 利用者語（ロードモジュールの本名，別名または副入口名）が格納される。
- ④ 利用者語が分割された単語が格納される。（日本語名標辞書の項目キーとなる。）
- ⑤ 単語長が格納される。
- ⑥ 空白が格納される。

利用者が入力する情報

- ①～⑤ 利用者は，格納されている情報を変更してはならない。
- ⑥ 利用者が単語に対応する日本語を入力する。（シフトコードを含む。）

備考1. ロードモジュール単語ファイルは、④（単語）、①（資産種別）、及び③（利用者語）の順でソートされる。

備考2. ロードモジュール単語ファイルは、可変長レコードでCSV 形式ファイルだが、各フィールドの値は固定長イメージ（後続の空白は詰まらない）で出力される。なお、フィールドは引用符では囲まれない。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて出力されるロードモジュール単語ファイルと、利用者にて日本語を入力した後のロードモジュール単語ファイルの例を付図C.3 に示す。

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて出力されるロードモジュール単語ファイルの例

```
LD1, ALS1      , ALS      , 3,  
LDO, MODNAM1 , MOD      , 3,  
LDO, MODNAM1 , NAM      , 3,  
LDO, MODNAM1 , 1        , 1,  
LDO, MODNAM2 , 2        , 1,  
      :
```

利用者にて日本語が入力されたロードモジュール単語ファイルの例

（PFD による入力で、フィールドが固定長イメージ）

```
LD1, ALS1      , ALS      , 3, 別名  
LDO, MODNAM1 , MOD      , 3, ロードモジュール  
LDO, MODNAM1 , NAM      , 3, 本名  
LDO, MODNAM1 , 1        , 1, 本番系  
LDO, MODNAM2 , 2        , 1, テスト系  
      :
```

利用者にて日本語が入力されたロードモジュール単語ファイルの例

（表計算ソフトによる入力で、フィールドが可変長イメージ）

```
LD1, ALS1, ALS, 3, 別名  
LDO, MODNAM1, MOD, 3, ロードモジュール  
LDO, MODNAM1, NAM, 3, 本名  
LDO, MODNAM1, 1, 1, 本番系  
LDO, MODNAM2, 2, 1, テスト系  
      :
```

付図C.3 ロードモジュール単語ファイルの例

## C.4 実行結果リスト

日本語名標辞書作成支援プログラムを運用する際に出力する次の実行結果リストを説明する。

- PARMパラメタ結果リスト
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 結果リスト
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 結果リスト
- エラー情報リスト

### C.4.1 PARMパラメタ結果リスト

ジョブ制御文中で指定されたPARMパラメタの内容、指定に誤りがある場合のエラーメッセージ及び実行時に有効となった指定パラメタを出力する。エラーメッセージについては、“C.6 診断メッセージ”を参照されたい。エラー発生時と正常終了時のPARMパラメタ結果リストの例を付図C.4 に示し、説明する。

エラー発生時

```

**      指定パラメタ      **
----*----1----*----2----*----3----*----4----*----5----*----6----*----7----*----8----*----9----*----0
①ISL=0, IPL=0, UNIQUE

②JSMHU004-S ISLオプションの指定に誤りがあります。

**      実行結果      **

③CSV ファイル (LM一覧) (JSMHCSV) レコード件数=0000000
④LM単語ファイル (JSMHHWRD)          レコード件数=0000000
```

正常終了時

```

**      指定パラメタ      **
----*----1----*----2----*----3----*----4----*----5----*----6----*----7----*----8----*----9----*----0
①ISL=8, IPL=0, UNIQUE

**      確定パラメタ      **

⑤ISL (8)    IPL (0)    UNIQUE

**      実行結果      **

③CSV ファイル (LM一覧) (JSMHCSV) レコード件数=0000060
④LM単語ファイル (JSMHHWRD)          レコード件数=0000045
```

付図C.4 PARMパラメタ結果リスト例

[付図C.4 の説明]

- ① ジョブ制御文に指定されたPARMパラメタが出力される。
- ② ①の内容に誤りがあった場合、エラーメッセージが出力される。
- ③ ロードモジュール一覧出力機能にて出力されたCSV 形式ファイルを入力とし、処理されたレコード件数が出力される。
- ④ ロードモジュール単語ファイルとして出力されたレコード件数が出力される。
- ⑤ ①の内容が重大なエラー又は致命的なエラーでない場合、PARMパラメタが出力される。

## C.5 使用手引

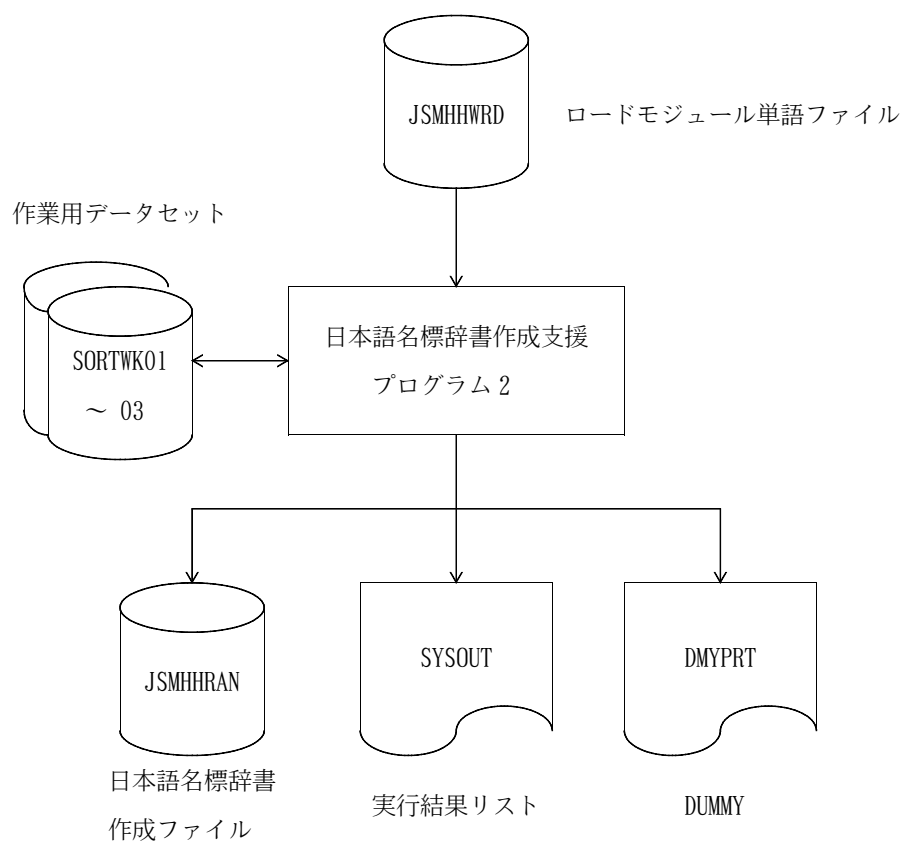
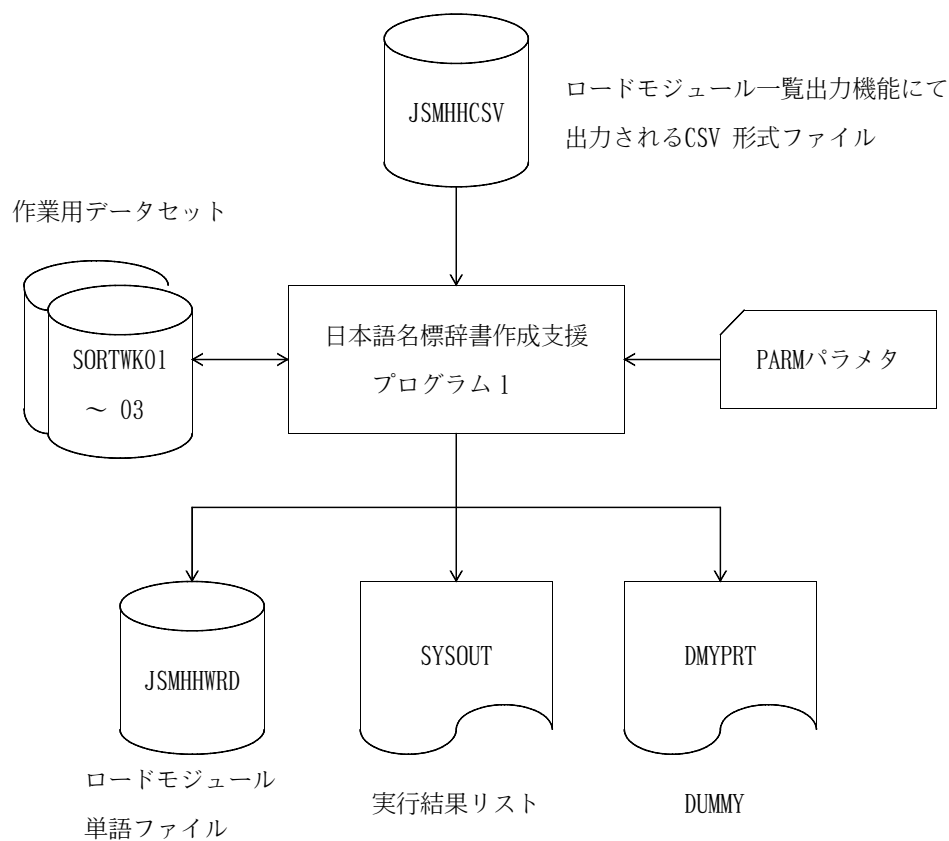
日本語名標辞書作成支援プログラムの使用手引について、以下の事項を述べる。

- ジョブ制御文
- 使用例

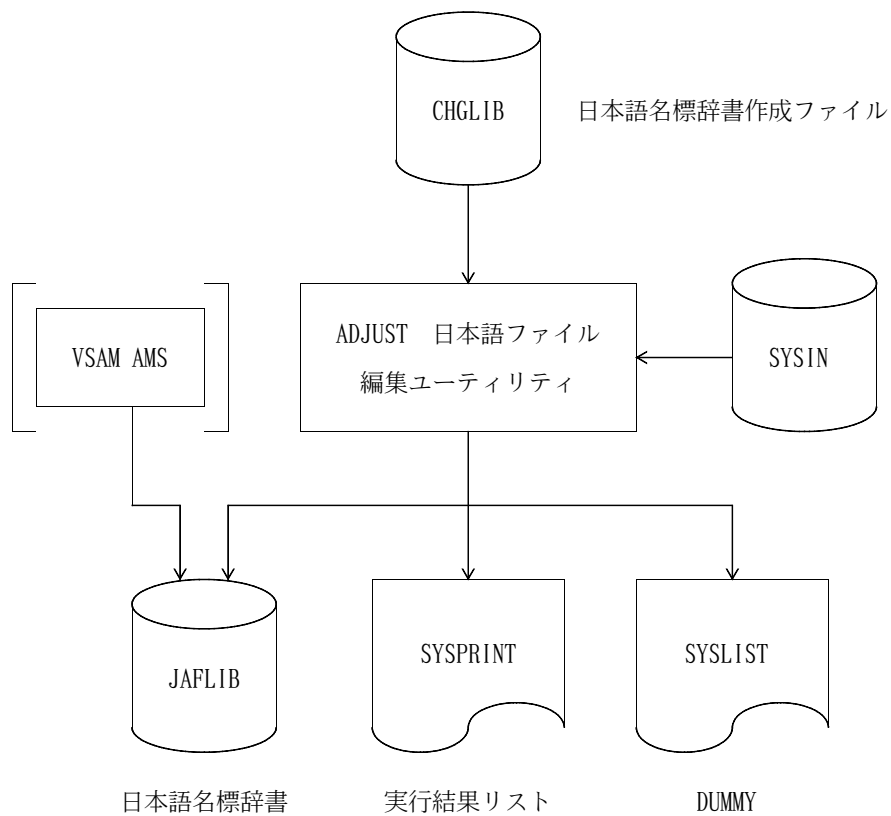
### C.5.1 ジョブ制御文

日本語名標辞書作成支援プログラムを実行するために必要なジョブ制御文及び実行時オプションについて述べる。日本語名標辞書作成支援プログラムを使用するために必要な入出力データセットと各々のDD名を付図C.5 に示す。





付図C.5 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なデータセット名とDD名（続く）



付図C.5 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なデータセット名とDD名（続き）

#### C. 5. 1. 1 EXEC文

日本語名標辞書作成支援プログラムの機能呼び出し実行させるためのジョブ制御文である。指定する内容には次のものがある。

##### C. 5. 1. 1. 1 プログラム名

日本語名標辞書作成支援プログラムの呼び出しプログラム名を以下に示す。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 : JSMHDSS1
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 : JSMHDSS2

##### C. 5. 1. 1. 2 リージョンサイズ

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 及び日本語名標辞書プログラム 2 のリージョンサイズは、1024K バイトを指定する。

##### C. 5. 1. 1. 3 実行時オプション

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行時オプションを指定する。実行時オプションの記述形式と意味については、“C. 5. 1. 2 実行時オプションと意味”で述べる。

本オプションは以下の場所に指定する。

- OS IV/MSP の場合には、EXEC文のPARMパラメタ
- OS IV/XSP の場合には、PARA文

なお、日本語名標辞書作成支援プログラム 2 には、実行時オプションが存在しない。

#### C. 5. 1. 2 実行時オプションと意味

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行時オプションの記述形式と意味を述べる。

##### C. 5. 1. 2. 1 オプションの記述形式

オプションの記述形式を以下に示す。

$$\left[ \text{ISL} = \left\{ \frac{8}{n} \right\} \right] \left[ , \text{IPL} = \left\{ \frac{0}{n} \right\} \right] \left[ , \left\{ \frac{\text{UNIQUE}}{\text{NOUNIQUE}} \right\} \right]$$

- { } は、いずれか一つを選択することを示す。
- [ ] は、省略可能なオプションであることを示す。ただし、省略された場合は下線 “\_” のものが選択されたものとみなす。
- 各オプションは “,” で区切って指定する。
- UNIQUEとNOUNIQUEには簡略形が存在する。それぞれUNI とNOUNI である。

#### C.5.1.2.2 オプションの意味

オプションでは以下の事項を指定する.

##### ー 利用者語の分割規則

利用者語の分割規則を指定するもの

$$I S L = \left\{ \frac{8}{n} \right\}$$

利用者語の分割の対象とする英数字名の長さを 1 ～ 8 の数字で指定する. 各英数字名の先頭から指定された数で区切り, 単語に分割する.

$$I P L = \left\{ \frac{0}{n} \right\}$$

利用者語の分割の対象としない部分の長さを先頭から 0 ～ 7 の数字で指定する.

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{UNIQUE} \\ \text{NOUNIQUE} \end{array} \right\}$$

利用者語を分割した単語において, 重複が発生した場合のロードモジュール単語ファイルへの出力方法を指定する. 重複した単語の出力を抑制する場合は, 'UNIQUE' を, 重複した単語の出力を抑制しない場合には, 'NOUNIQUE' を指定する.

備考. UNIQUE及びNOUNIQUE指定時における重複した単語の扱いについて説明する.

単語の重複は, ロードモジュール単語ファイルの単語, 資産種別, 及び利用者語の三つをキーとして判断する. なお, ロードモジュール単語ファイルのフォーマットに関しては, “C.3 ロードモジュール単語ファイル”を参照されたい.

##### ー UNIQUE指定

単語が同じであれば, 資産種別または利用者語が異なる場合でも重複とみなす.

したがって, 出力される単語は重複しない.

##### ー NOUNIQUE指定

単語が同じであっても, 資産種別または利用者語が異なる場合には重複とみなさない.

したがって, 出力される単語は重複する場合がある.

#### C.5.1.3 注意事項

日本語名標辞書作成支援プログラムを使用する場合の注意事項を次に述べる.

ロードモジュール一覧出力機能にて出力されるCSV 形式ファイルについて

##### ー 出力された内容を変更したCSV 形式ファイルを入力とした場合には, 動作を保証しない.

ロードモジュール単語ファイルについて

##### ー 規定のフォーマットに従っていないロードモジュール単語ファイルを入力とした場合には, 動作を保証しない.

#### ロードモジュール単語ファイルの転送について

- ホストからパソコンへの転送

テキスト転送にて行う。

(FIMPORT コマンドを使用する場合には、テキストファイル受信を選択する。)

- パソコンからホストへの転送

テキスト転送にて行う。ただし、レコード形式は可変長、レコード長は90バイトとすること。

(FEXPORT コマンドを使用する場合には、テキストファイル送信を選択する。)

#### C. 5. 1. 4 実行に必要なDD文

付表C. 1 に、日本語名標辞書作成支援プログラムを実行するときに必要なDD文とその用途を示す。

付表C. 1 日本語名標辞書作成支援プログラムの実行に必要なDD文とその用途

DD名 (注1)	用 途	編成 (注2)	レコード 形 式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)
DMYPRT	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 作業用データセット</li> <li>- 必須データセット</li> <li>- 日本語名標辞書作成支援プログラムが内部的に呼び出すソートマージプログラムが使用する</li> </ul>	—	—	—	—
JSMHCSV	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ロードモジュール一覧出力機能にて出力されるCSV 形式ファイル</li> <li>- 必須データセット</li> </ul>	PS	V, VB	299	レコード長の倍数+ 4 以上
JSMHHRAN	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本語名標辞書作成ファイル</li> <li>- 必須データセット</li> </ul>	PS	F, FB	124	レコード長の倍数
JSMHHWRD	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ロードモジュール単語ファイル</li> <li>- 必須データセット</li> </ul>	PS	V, VB	90	レコード長の倍数+ 4 以上
SORTWK01～ 03	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 作業用データセット</li> <li>- 必須データセット</li> <li>- 日本語名標辞書作成支援プログラムが内部的に呼び出すソートマージプログラムが使用する</li> </ul>	PS	—	—	—
SYSOUT (LIST)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 実行結果リスト</li> <li>- 必須データセット</li> </ul>	PS	VBA	141	レコード長の倍数+ 4 以上

注 1) 表中のDD名欄は、OS IV/MSP でのDD名を示す。( )内は、OS IV/XSP でのアクセス名がOS IV/MSP でのDD名と異なる場合のみ、そのアクセス名を示す。

注 2) 編成欄の記号と意味は、以下のとおりである。

PS：順編成データセット

備考. 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 において、VSAMのDEFINE CLUSTER (プログラム名：KQCAMS) 及びADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティ (プログラム名：JRQJAFE ) のDD文については、それぞれのマニュアルである“AMS コマンド文法書”及び“ADJUST使用手引書 バッチ処理機能編”を参照されたい。

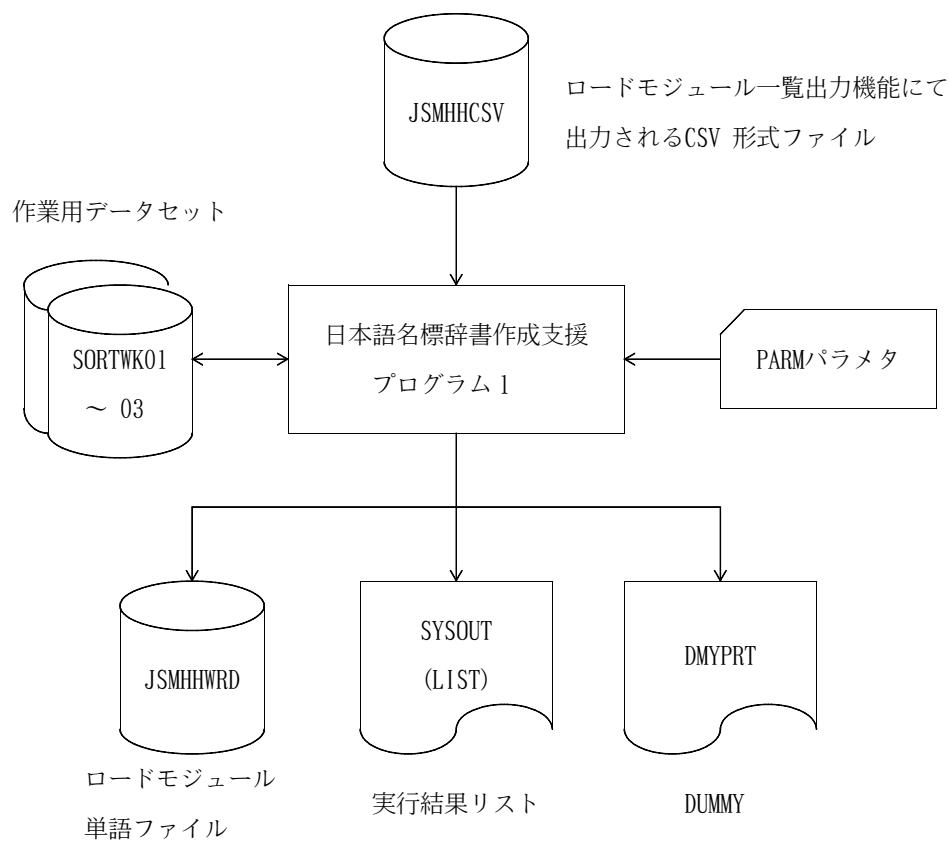
## C.5.2 使用例

日本語名標辞書作成支援プログラムの使用例として以下の事項を述べる。

- 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて、ロードモジュール単語ファイルを出力する場合
- 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 にて、日本語名標辞書を作成する場合

### C.5.2.1 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 にて、ロードモジュール単語ファイルを出力する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム 1 を使用するために必要な入出力データセットと各々の DD 名を付図 C.6 に示す。



付図 C.6 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 の実行に必要な入出力データセットと DD 名

付図C.7 に日本語名標辞書作成支援プログラム 1 を使用する場合は OS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、付図C.8 に OS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//USER01A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//* 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMHDSS1,REGION=1024K,
// PARM='ISL=8,IPL=0,UNIQUE'
//JSMHHC SV DD DSN=USER01.LIST.CSV,DISP=SHR
//JSMHHWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=90,BLKSIZE=3154)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY
//
```

付図C.7 日本語名標辞書作成支援プログラム 1 のジョブ制御文例 (OS IV/MSP )



```

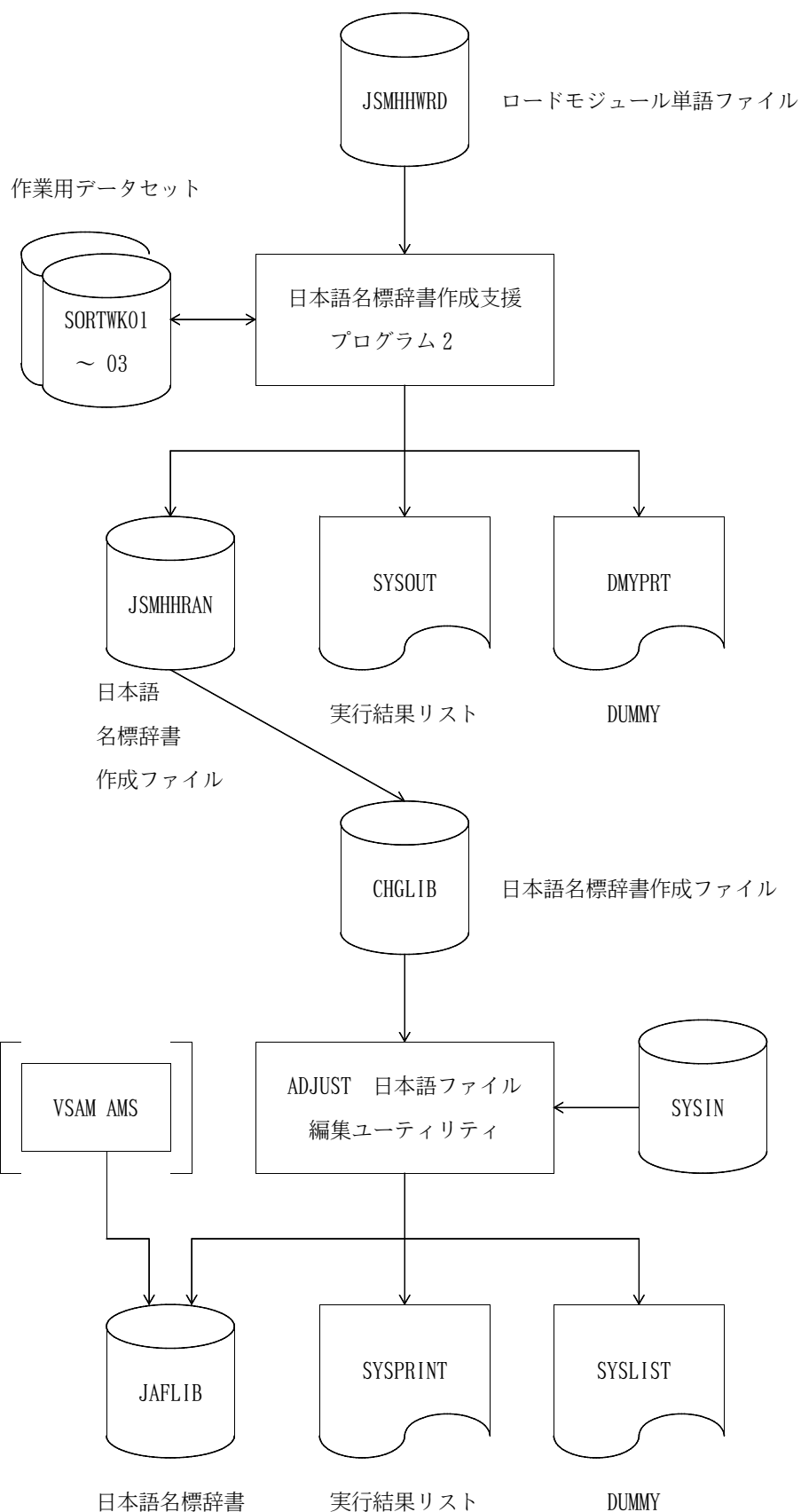
¥ JOB  GA
¥ JOB  USER01A,PSW=XXXX,LIST=(T,JD)
¥*****
¥**          日本語名標辞書作成支援プログラム 1          *
¥*****
¥STEP1      EX  JSMHDSS1,RSIZE=1024
¥  PARA  ISL=8,IPL=0,UNIQUE
¥  FD    STEPCAT=DA,FILE=USERXXX
¥  FD    PRGLIB=DA,FILE=USER01.DFLOAD.UTYLOAD
¥  FD    CF=DA,FILE=C.ALIB
¥  FD    JSMHHCsv=DA,FILE=USER01.LIST.CSV
¥  FD    JSMHHWRD=DA,VOL=DASDXX,FILE=USER01.WORD.CSV,
        DISP=CAT,TRK=(10,10,RLSE),
        FCB=(RECFM=VB,LRECL=90,BLKSIZE=3154)
¥  FD    LIST=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10),SOUT=T
¥  FD    SORTWK01=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD    SORTWK02=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD    SORTWK03=DA,VOL=WORK,TRK=(10,10,RLSE)
¥  FD    DMPRT=DUMMY
¥ JEND
¥ JGEND

```

付図C.8 日本語名標辞書作成支援プログラム1のジョブ制御文例(OS IV/XSP)

### C. 5. 2. 2 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 にて、日本語名標辞書を作成する場合

日本語名標辞書作成支援プログラム 2 を使用するために必要な入出力データセットと各々のDD名を付図 C. 9 に示す。



付図C. 9 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 の実行に必要な入出力データセットとDD名

付図C. 10に日本語名標辞書作成支援プログラム 2 を使用する場合はOS IV/MSP のジョブ制御文の例を示し、付図C. 11にOS IV/XSP のジョブ制御文の例を示す。

```
//USER01B JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.DFLOAD.UTYLOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR

//*****
//*          日本語名標辞書作成支援プログラム 2          *
//*****

//STEP1 EXEC PGM=JSMHDSS2,REGION=1024K
//JSMHHWRD DD DSN=USER01.WORD.CSV,DISP=SHR
//JSMHHRAN DD DSN=&&DFLOAD,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)
//DMYPRT DD DUMMY

//*****
//*          D E F I N E   C L U S T E R          *
//*****

//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=1024K,
//          COND=(4,LT)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
    DEFINE CLUSTER -
            (NAME(USER01.RAN.NDICT) -
            INDEXED -
            UNIQUE -
            KEYS(30 0) -
            IMBED -
            VOLUMES(DASDXX) -
            TRK(5) -
```

付図C. 10 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 のジョブ制御文例 (OS IV/MSP ) (続く)

```

        RECORDSIZE(124 124))          -
        DATA                          -
        (NAME (USER01. RAN. NDICT. DATA)) -
        INDEX                          -
        (NAME (USER01. RAN. NDICT. IDX))

/*
//*****
//**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
//*****
//JAFE1   EXEC   PGM=JRQJAFE, REGION=1024K,
//          COND=(4, LT)
//SYSPRINT DD   SYSOUT=*
//SYSLIST  DD   DUMMY
//SYSIN    DD   *
-   ADD OUT(JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
-   FORMAT SAME
-   CHGIN    IN(CHGLIB)
-   END
/*
//JAFLIB   DD   DSN=USER01. RAN. NDICT, DISP=SHR
//CHGLIB   DD   DSN=&&DFLOAD, DISP=(OLD, DELETE)
//

```

付図C. 10 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例（OS IV/MSP ）（続き）

```

¥ JOB  GA
¥ JOB  USER01B, PSW=XXXX, LIST=(T, JD)
¥*****
¥**          日本語名標辞書作成支援プログラム 2          *
¥*****
¥STEP1    EX  JSMHDSS2, RSIZE=1024
¥  FD     STEPCAT=DA, FILE=USERXXX
¥  FD     PRGLIB=DA, FILE=USER01. DFLOAD. UTLOAD
¥  FD     CF=DA, FILE=C. ALIB
¥  FD     JSMHHRD=DA, FILE=USER01. WORD. CSV
¥  FD     JSMHHRAN=DA, VOL=WORK, DISP=CONT, TRK=(10, 10, RLSE),
          FCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240)
¥  FD     LIST=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=T
¥  FD     SORTWK01=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10, RLSE)
¥  FD     SORTWK02=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10, RLSE)
¥  FD     SORTWK03=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10, RLSE)
¥  FD     DMPRT=DUMMY
¥*****
¥**          D E F I N E   C L U S T E R          *
¥*****
¥KQCAMS1  EX  KQCAMS, RSIZE=1024, COND=+20
¥  FD     STEPCAT=DA, FILE=USERXXX
¥  FD     SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=T
¥  FD     SYSIN=*
          DEFINE  CLUSTER                                -
          (NAME (USER01. RAN. NDICT))                      -
          INDEXED                                           -
          KEYS (30 0)                                       -
          IMBED                                             -
          VOLUMES (DASDXX)                                  -
          TRACKS (5)                                        -
          RECORDSIZE (124 124))                             -
          DATA                                             -
          (NAME (USER01. RAN. NDICT. DATA))                -
          INDEX                                             -
          (NAME (USER01. RAN. NDICT. IDX))
¥/

```

付図C. 11 日本語名標辞書作成支援プログラム 2 のジョブ制御文例（OS IV/XSP ）（続く）

```

¥*****
¥**          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
¥*****
¥JAFE1      EX  JRQJAFE, RSIZE=2048, COND=+20
¥  PARA  CNTL=-
¥  FD    STEPCAT=DA, FILE=USERXXX
¥  FD    PRGLIB=DA, FILE=SYS. ADJUST. LINKLIB
¥  FD    LIST=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=T
¥  FD    CHGLIB=/, SW=JSMHHRAN
¥  FD    JAFLIB=DA, FILE=USER01. RAN. NDICT
¥  FD    PRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=T
¥  FD    COIN=*
-  ADD  OUT(JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
-  FORMAT  SAME
-  CHGIN    IN(CHGLIB)
-  END
¥/
¥  JEND
¥  JGEND

```

付図C.11 日本語名標辞書作成支援プログラム2のジョブ制御文例（OS IV/XSP）（続き）

## C.6 診断メッセージ

日本語名標辞書作成支援プログラムの出力する診断メッセージについて説明する。

なお、診断メッセージの形式については、“第5章 診断メッセージ”を参照されたい。

ただし、メッセージ番号において機能を示す5文字目には、ユーティリティを意味する“U”が出力される。

### JSMHU001-S

指定されたパラメタが 100バイトを超えています。

[メッセージの意味]

100 バイトを超えてPARMパラメタを指定した。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

PARMパラメタを100 バイト以内で指定して再度実行する。

### JSMHU002-S

実行時オプションに文法エラーがあります。

[メッセージの意味]

文法に合致しない記述方法で実行時オプションが指定されている。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定して再度実行する。

### JSMHU003-S

実行時オプションの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションに誤った指定がある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定して再度実行する。

### JSMHU004-S

opt1オプションの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションのopt1オプションの指定に誤りがある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[パラメタの意味]

opt1: 誤りのあるオプション.

[利用者の処置]

必要ならばオプションを変更して再度実行する.

#### JSMHU005-S

CSV ファイル (LM一覧) (JSMHHCSV) に単語採取のデータが存在しません.

[メッセージの意味]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV) に, 採取可能な単語のデータが存在しない.

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV) を確認する.

#### JSMHU006-W

単語が重複しています. 重複した単語は抑止されました. 単語=wrld, 種別=knd1, モジュール名=mem1

[メッセージの意味]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV) から採取する単語が重複したため, ロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) への出力を抑制した.

[パラメタの意味]

wrld: 重複した単語.

knd1: 重複した単語の種別. LD0 は本名, LD1 は別名, LD2 は副入口名を示す.

mem1: 重複した単語が属するロードモジュール名.

[システムの処理]

処理を続行する.

#### JSMHU007-W

単語が重複しています. 単語=wrld, 種別=knd1, モジュール名=mem1

[メッセージの意味]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV) から採取する単語が重複したが, 種別またはモジュール名が異なるため, ロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) へ出力した.

[パラメタの意味]

wrld: 重複した単語.

knd1: 重複した単語の種別. LD0 は本名, LD1 は別名, LD2 は副入口名を示す.

mem1: 重複した単語が属するロードモジュール名.

[システムの処理]

処理を続行する.



#### JSMHU008-E

単語が採取できませんでした。種別=kndl, モジュール名=meml

##### [メッセージの意味]

メッセージに出力しているロードモジュール名からは、単語が採取できなかった。

##### [パラメタの意味]

kndl: 単語が採取できなかったロードモジュールの種別。LD0 は本名, LD1 は別名, LD2 は副入口名を示す。

meml: 単語が採取できなかったロードモジュール名。

##### [システムの処理]

処理を続行する。

##### [利用者の処置]

必要ならばオプションを変更して再度実行する。

#### JSMHU009-U

@1 アクセスエラー 入出力状態=@2

##### [メッセージの意味]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV), ロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD), または日本語名称辞書作成ファイル (DD名: JSMHHRAN) において、アクセスエラーが発生した。

##### [パラメタの意味]

@1: アクセスエラーが発生したデータセット

- CSV ファイル (LM一覧) (JSMHHCSV)
- LM単語ファイル (JSMHHWRD)
- 日本語名称辞書作成ファイル (JSMHHRAN)

@2: COBOL85 の入出力状態値

##### [システムの処理]

処理を中止する。

##### [利用者の処置]

COBOL85 の入出力状態値の意味を調べ、エラーの原因を取り除いて再度実行する。

#### JSMHU010-S

@1 に入力データが1件もありませんでした。

##### [メッセージの意味]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV) またはロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) に、データが1件も存在しなかった。

##### [パラメタの意味]

@1: 対象のデータセット

- CSV ファイル (LM一覧) (JSMHHCSV)
- LM単語ファイル (JSMHHWRD)

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

ロードモジュール一覧のCSV 形式ファイル (DD名: JSMHHCSV) またはロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) を確認する.

JSMHU011-S

@1 への出力データが1件もありませんでした.

[メッセージの意味]

ロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) または日本語名標辞書作成ファイル (DD名: JSMHHRAN) に、データが1件も出力されなかった.

[パラメタの意味]

@1: 対象のデータセット

- LM単語ファイル (JSMHHWRD)
- 日本語名称辞書作成ファイル (JSMHHRAN)

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

必要ならばオプションを変更して再度実行する.

JSMHU012-S

@1 列目のデータが正しくありません. レコード番号=@2

[メッセージの意味]

ロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) において、メッセージで示されるデータが正しくない.

[パラメタの意味]

@1: エラーとなった該当の列.

@2: エラーとなった該当のレコード番号.

レコード番号は7桁まで出力される. 7桁を超える場合には、レコード番号の最後に '\*' が出力される.

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

ロードモジュール単語ファイル (DD名: JSMHHWRD) の該当箇所を確認し、修正する.

JSMHU013-W

日本語の切捨てを行いました. 単語=wrcl

切捨て後=nwcl

切捨て前=nwcl

[メッセージの意味]

ロードモジュール単語ファイル（DD名：JSMHHWRD）において、メッセージが示す単語に対応する日本語データに半角データが含まれていたため、半角データ以降を切り捨てた。

[パラメタの意味]

wrcl : 該当の単語.

nwd1 : 切捨て後の日本語データ

nwd2 : 切捨て前の日本語データ

[システムの処理]

処理を続行する.

[利用者の処置]

ロードモジュール単語ファイル（DD名：JSMHHWRD）の該当箇所を確認し、必要ならば修正する.

#### JSMHU014-S

単語が重複しています. 処理中断します. 単語=wrcl, 種別=knd1, モジュール名=mem1

[メッセージの意味]

ロードモジュール単語ファイル（DD名：JSMHHWRD）の単語が重複している.

[パラメタの意味]

wrcl : 重複した単語.

knd1 : 重複した単語の種別. LD0 は本名, LD1 は別名, LD2 は副入口名を示す.

mem1 : 重複した単語が属するロードモジュール名.

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

ロードモジュール単語ファイル（DD名：JSMHHWRD）の該当箇所を確認し、修正する.

#### JSMHU015-W

日本語が未入力です. データを無視しました. 単語=wrcl, レコード番号=@1

[メッセージの意味]

ロードモジュール単語ファイル（DD名：JSMHHWRD）において、メッセージが示す単語に対応する日本語データが入力されていないため、該当の単語を無視した.

[パラメタの意味]

wrcl : エラーとなった該当の単語.

@1 : エラーとなった該当のレコード番号.

レコード番号は7桁まで出力される. 7桁を超える場合には、桁の最後に ' \* ' が出力される.

[システムの処理]

処理を続行する.

[利用者の処置]

ロードモジュール単語ファイル（DD名：JSMHHWRD）の該当箇所を確認し、必要があれば修正する.

## 1 6 . 1 9 付録D DF-LOADCHARTのプロフィール取得方法

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

## 付録D DF-LOADCHARTのプロフィール取得方法

DF-LOADCHARTのバージョンレベル等のプロフィールを、コマンドプロシジャを起動して参照したり、ユーザーチンから呼び出して取得したりすることができる。

- ー コマンドプロシジャでのプロフィール通知
- ー ユーザーチンへのプロフィール通知

### D.1 コマンドプロシジャでのプロフィール通知

プログラム名JSMHPRF0をコマンドプロシジャにより起動してプロフィールを参照する。

起動時にV/L，修正No，修正日付，修正時刻，実行ユーザID，実行日付，及び実行時間を表示する。

[起動用コマンドプロシジャ]

```
ALLOC DD(SYSOUT) DS(*) REU
LIB   'COBOL85ライブラリ名'
CALL  'DF-LOADCHARTロードモジュールライブラリ 名(JSMHPRF0)' 'PH'
```

備考：下線付の部分はユーザ用に修正する。

XSP ではSYSOUT DD 名をLIST DD 名に修正する。

[表示形式]

```
*****
*          SIMPLIA/DF-LOADCHART          V21/L21①          *
*          修正NO ***** 15/05/15          *
*          ②          ③          修正時刻 13.44          ④*
*          実行ユーザ ID USER01          ⑤*
*          実行日付 25/06/15          ⑥*
*          実行時間 11.55.32          ⑦*
*          *****
```

付図D.1 プロフィール参照用コマンドプロシジャと表示形式

①V/L : 製品名称の右にバージョンレベルが表示される。

- ②修正NO : 製品版は, “\*\*\*\*\*”が表示される.  
修正版は, 修正No.が表示される.
- ③修正日付 : 製品版または修正版の作成日が表示される. (dd/mm/yy)
- ④修正時刻 : 製品版または修正版の作成時刻が表示される. (hh. mm )
- ⑤実行ユーザ ID : 実行しているユーザIDが表示される.
- ⑥実行日付 : 実行した日付が表示される. (dd/mm/yy)
- ⑦実行時間 : 実行した時刻が表示される. (hh. mm. ss)

## D.2 ユーザルーチンへのプロフィール通知

プログラム名JSMHPRF1をユーザルーチンより呼び出すことによりプロフィールを取得する.

JSMHPRF1はユーザルーチンに, V/L , 修正No., 修正日付, 修正時刻, 実行ジョブ名, 実行日付及び実行時刻を通知する.

[呼出形式]

CALL 'JSMHPRF1' USING パラメタ

[パラメタの内容と説明]

レベル	項目名	属 性	内 容
01	パラメタ		
03	依頼パラメタ		ユーザルーチンで設定する領域
05	依頼入力区分	X (01)	'P' を設定
05	依頼処理形態	X (01)	'B' を設定
05	依頼ツール名	X (01)	'H' を設定
05	FILLER	X (08)	
03	結果パラメタ		JSMHPRF1が設定する領域
05	ツール名	X (30)	'SIMPLIA/DF-LOADCHART'
05	バージョンレベル	X (06)	DF-LOADCHARTのバージョンレベル
05	修正NO	X (10)	DF-LOADCHARTの修正No.
05	修正日付	X (08)	DF-LOADCHARTの修正日付 (yy. mm. dd)
05	修正時刻	X (08)	DF-LOADCHARTの修正時刻 (hh. mm)
05	FILLER	X (08)	
05	実行ジョブ名	X (08)	動作しているジョブ名
05	FILLER	X (08)	
05	実行日付	X (08)	JSMHPRF1の実行日付 (yy. mm. dd)
05	実行時刻	X (08)	JSMHPRF1の実行時刻 (hh. mm. ss)
05	リターンコード	9 (02)	00: 正常 03: 入力区分エラー 04: 処理形態エラー 05: ツール名エラー
05	FILLER	X (08)	

付図D.2 JSMHPRF1の呼出形式とパラメタの内容と説明

## 17. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

◆参照 → 4

表17.1 プログラム修正事項

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	ロードモジュール一覧出力機能、ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能およびロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能において、一定数以上のモジュールが静的結合されているロードモジュールは、言語および翻訳プログラムのV/L が出力されない場合がある。 (対処) 一定数以上のモジュールが静的結合されているロードモジュールの言語および翻訳プログラムのV/L が出力されるように修正した。	JSMH6200 JSMH6270 JSMH7100 JSMHF100 JSMHF910
2	ドキュメント出力機能および保存ファイル作成機能において、S878で異常終了する場合がある。 (対処) GETMAIN マクロ命令による仮想記憶領域の確保ができなかった場合には、エラーメッセージ (JSMHC041-U) を出力するように修正した。	JSMHF075 他53本
3	ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能およびロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能において、処理対象メンバは連結したライブラリに存在しているが、以下のエラーとなり処理を終了する場合がある。 - ロードモジュール／ソース作成日付チェックリスト出力機能 JSMHD001-S 指定された制御文では処理可能なメンバが存在しません。 - ロードモジュール／ソース作成日時チェックリスト出力機能 JSMHT001-S 指定された制御文では処理可能なメンバが存在しません。 (対処) 処理対象メンバが連結した先頭のライブラリに、全く存在しない場合でも処理できるように修正した。	JSMH7085 JSMH7140 JSMH7175 JSMHF085 JSMHF140 JSMHF175







FUJITSU